

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

FIDIC-2008 ケベック大会 総括

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 社長
社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会 会長 廣谷彰彦

1.はじめに

(社)日本コンサルティング・エンジニア協会(AJCE)は、日本のコンサルタントの代表として、国際コンサルティング・エンジニア連盟(FIDIC)に加盟している国内唯一の組織である。

FIDICは、世界各国・地域・経済のコンサルタント協会を会員とし、事業にかかる契約文書の発行をはじめ様々な活動を展開し、コンサルタント産業の普及・発展に努力している。

AJCEでは、このようなFIDICとの連携を深めながら、選定方法をはじめコンサルタントが抱える課題の検討・提案を積極的に行うとともに、そこから得られる各種情報を、会員の皆様を通じて、顧客、また広く国民の皆様に向け、提供、普及、啓発を行っている。

2.大会概要

今年のFIDIC年次大会は、カナダのケベック市において、2008年9月7日(日)~10日(水)の会期で開催された。

今年度は、「A Strong Industry Serving Society ~社会に貢献する強力な産業~」をテーマに、世界60もの国と地域から750名を超える参加者が、世界遺産に登録されたこの美しい都市に会した。日本からは、AJCE会員と同伴者、そして国際協力銀行(10月1日より国際協力機構)の中川茂雄参事、京都大学より大本俊彦教授、合計29名が参加した。

今大会では、上述の大会メインテーマのもと、サブテーマとして Influencing Society、 Delivering Quality、 Developing Strong Organizationsの3つが掲げられ、合計38名の講演者が各テーマに沿った講演を行った。それぞれのセミナーやワークショップの場では、講演者と参加者が一体となって、有意義で活発な議論が展開されていた。

FIDICには6つの常設委員会が設置されており、AJCE会員はそれぞれの委員会に参加し、その活動に大きく貢献している。今大会においても、早朝から夕刻まで、多数の会員が委員会活動等に参加し、AJCEの存在感を一層高めた。

また現在AJCEは、FIDICのアジア・太平洋地域組織(ASPAC)の議長国を努めている。今大会においては、定例の理事会や総会において、ASPAC地域におけるコンサルタントの能力開発に関わるプログラムや若手技術者フォーラムの設置を提案した。加えて、オープンフォーラムやネットワーキングランチなどを通じて、地域のメンバーが抱える問題の共有、情報交換を行い、交流を更に深めることができた。

3.終わりに

今大会においては、2013年の創立100周年に向けて、FIDICが、コンサルタント産業の声・牽引役としての責務を確認し、より一層のリーダーシップを発揮していくことを強力に印象づけていた。

また我々が、社会に貢献し続ける力強い産業となるためには、「質の高いサービス」「持続可能性への貢献」「技術者としての行動規範」「自らの変革」「高い収益性」などが重要であることを、参加者の間で共有することができた。

我々コンサルタントは、目まぐるしく変化する社会や人々のニーズを的確に読み取り、また自ら変革し続け、持続可能な社会の発展に寄与していかなければならない。

こうした責務を会員の皆様と共有し、クライアントやユーザーの皆様の信頼獲得、コンサルタントの地位向上に向けて、国内外へ向けた提案を積極的に行っていく所存である。

FIDIC-2008 ケベック大会

開催期間 : 2008年9月7日(日)~ 10日(水)

会場 : カナダ・ケベックシティ

Fairmont Le Chateau Frontenac

メインテーマ : A Strong Industry Serving Society ~ 社会に貢献する強力な産業 ~

サブテーマ : Influencing Society

Delivering Quality

Developing Strong Organizations

参加者 : 約60ヶ国、750人(日本からは29人)

プログラム : 大会期間は9月7日~ 10日の4日間ですが、大会開催に先立ち、4日からFIDIC理事
会・常設委員会・会長会議等が開催されました。

プログラム

THU 4 Sep

FIDIC Executive Meeting, Part 1

FRI 5 Sep

FIDIC Executive Meeting, Part 1

FIDIC YPMTF working sessions

SAT 6 Sep

FIDIC YPMTF working sessions

Directors & Secretaries Meeting

SUN 7 Sept

FIDIC YPMTF working session

FIDIC Member Committee Meeting

FIDIC Integrity Management Committee Meeting

FIDIC Business Practice Committee Meeting

FIDIC Sustainable Development Committee Meeting

FIDIC Capacity Building Committee Meeting

FIDIC Risk and Liability Committee Meeting

FIDIC Presidents Meeting

FIDIC ASPAC Executive Meeting

FIDIC GAMA Executive Meeting

Young Professionals Steering Committee Meeting

Welcome Reception: Musée National des Beaux-Arts

MON 8 Sept

Opening Ceremony

Plenary Session 1

Seminar 1 Our role in the global community "

Seminar 2 Environmental stewardship and sustainability"

Seminar 3 Setting an example: Ethics and Integrity"

Regional Report - ASPAC-Asia: Session 1

Regional Report - GAMA-Africa Session 2"

Young Professionals Open Forum

TUE 9 Sep

Plenary Session 1

Seminar 4A Communication: a core competence"

Seminar 5A Choosing economic and environmental sustainability"

Seminar 6A Does risk transfer threaten quality?"

FIDIC ASPAC Networking Lunch

Workshop 4B Communication: a core competence"

Workshop 5B Choosing economic and environmental sustainability"

Workshop 6B Does risk transfer threaten quality?"

FIDIC ASPAC GAM

WED 10 Sep

Plenary 3 - Industry Leaders

Seminar 7 Advocacy: a voice for the industry

Seminar 8 Planning success through succession planning

Seminar 9 Business strategies for a changing market

Plenary : Conference Reports

FIDIC GAM

Gala Dinner

THU 11 Sep

FIDIC Executive Meeting Part 3

FIDIC DBO Contract Seminar



会場 : Fairmont Le Chateau Frontenac ホテル

FIDIC-2008 ケベック大会 参加者 一覧

所 属		氏 名
賛助会員		竹村 陽一
エヌジェーエス・コンサルタンツ	代表取締役社長	竹内 正善
オリエンタルコンサルタンツ	代表取締役社長	廣谷 彰彦
オリエンタルコンサルタンツ	本社	渡津 永子
オリエンタルコンサルタンツ/ ACKグループ	本社	藤岡 和久
建設技研インターナショナル	業務本部 営業企画室 室長	前田 剛和
建設技術研究所	常務取締役 九州支社長	内村 好
建設技術研究所	企画本部 経営企画部 担当部長	河上 英二
建設技術研究所	企画本部 経営企画部 部長	金井 恵一
建設技術研究所	企画本部 国際部 技師長	鏑木 孝治
長大	東日本構造事業部 構造計画2部	中村 公紀
田中宏技術士事務所	所長	田中 宏
東京設計事務所	代表取締役副社長	宮本 正史
日水コン	東京下水道事業部 副事業部長	春 公一郎
日水コン	河川事業部副事業部長	藏重 俊夫
日水コン	東京下水道事業部2部1課	赤坂 和俊
日本工営	コンサルタント海外事業本部エネルギー開発 部副技師長	迫田 至誠
日本工営	コンサルタント海外事業本部 都市環境部	山寺 彰
早房技術士事務所	所長	早房 長雄
京都大学	教授	大本 俊彦
日本工営	コンサルタント海外事業本部 民活プロジェ クト部 部長	林 幸伸
AJCE	事務局長	山下 佳彦
国際協力銀行 (JBIC)	プロジェクト開発部 参事	中川 茂雄

日本人参加者23名
 同伴者 6名
 計29名

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

2008 FIDIC General Assembly Meeting(GAM) 2008年 FIDIC 総会

株式会社建設技術研究所 常務取締役九州支社長
AJCE 副会長 **内村 好**

1. 総会概要

開催日時：2008年9月10日(水)16:00～17:15

開催場所：Hotel Chateau Frontenac, Quebec

出席国：62カ国登録(出席はその約2/3)

日本代表団：廣谷会長、内村副会長、宮本副会長

2. 議事概要

2.1 2007年活動報告

J.Boyd会長の挨拶に引き続き07年度のシンガポール大会の総会の議事録、07-08年次報告書、07年会計報告・監査が滞りなく承認された。2007年度の収入は2,785千SF(スイスフラン)で06年度より出版事業の増収により30%の大幅増。支出は2,521千SF(約252万円)である。収入のうち会費が4割弱、出版収入が5割弱を占める。

2.2 入退会の承認

今年度は新たな正会員の入会はなかったが、下記の2協会が新たに準会員(Associate Member)として承認された。また、アルベニア協会は準会員への移行を検討中であるとの報告があった。

AECU - Association of Engineering Consultants Ukraine
ウクライナ

UZACE - Uzbek Association of Consulting Engineers
ウズベキスタン

また、タイ協会(CEAT)は会費未納のため除名が承認された。Affiliate Member(賛助会員)として仏、スイス、カナダ、UAE、エチオピアの企業が承認された。

2.3 定款、細則の変更

定款の公式言語はこれまで、英、仏、独、西の四ヶ国語だったが、これを英語に統一化し細則も関連条項を変更することが承認された。

2.4 2009年の予算、会費の承認

2009年度の予算および各国協会の会費が承認された。収入は2,575千SF、支出は2,600千SFでいずれも08年度予算の10%強の増である。

会費については、米国が最大(上限)で会員従業員数302千人で121千SF(投票権6票)以下、英国とフランス36千人79千SF(5)、カナダ34千人76千SF(5)、スペイン23千人59千SF(5)、ドイツ23千人57千SF(5)である。ちなみに日本は5千人18千SF(3)で17番目、中国20千人40千SF(LDC割引4)、韓国4千人12千SF(2)である。

2.5 次期会長選任

来年退任する予定のカナダのJohn Boyd氏に引き続く次期会長に米国のGreggs Thomopoulos氏が選出された。来年のロンドン大会ではアジア選出の2名を含む4名の理事が退任予定である。

2.6 新理事の選出

退任するデンマークのPedersen理事の後任に下記2名が立候補し、Gobiet氏が選任された。

Andreas GOBIET, Austria	134票
Karamat Ullah CHAUDRY, Pakistan	31票

2.7 2012年および2013年大会開催地の選定

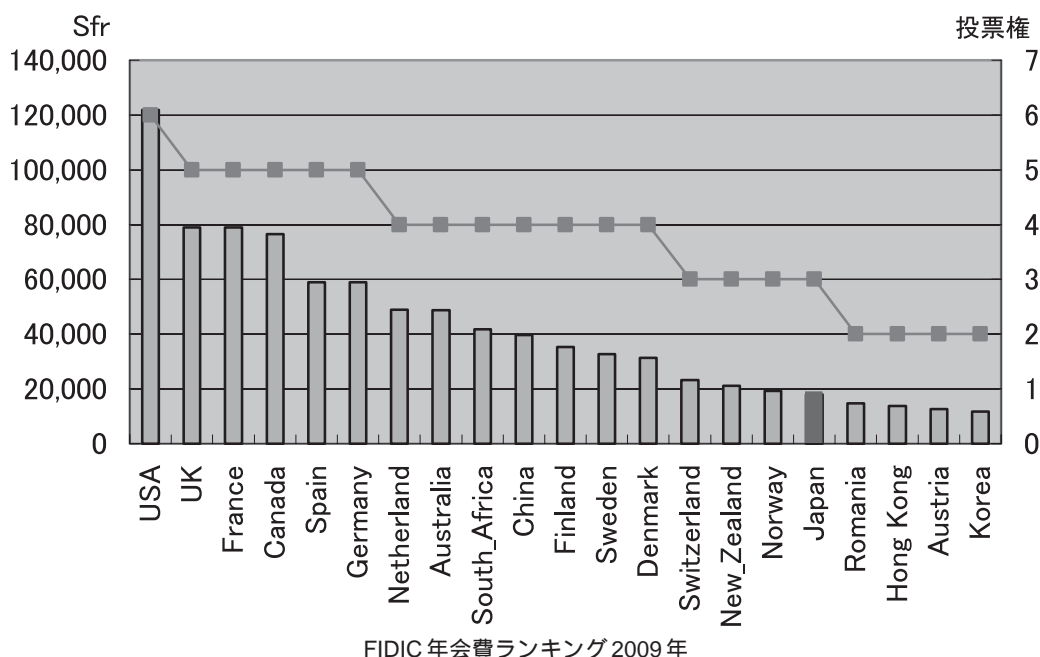
2010年に一度立候補しインドに譲った韓国が再度立候補し、無投票で2012年の開催地となった。

FIDIC創立100周年となる2013年大会開催地については、従来の立候補方式をとらずFIDIC本部に委員会を作って検討することとなった。この結果、今後の開催予定は次の通りである。

2009年ロンドン(英国)9月13-16日、2010年ニューデリー(インド)9月12-15日、2011年チュニス(チュニジア)、2012年ソウル(韓国)、2013年???(FIDIC100周年)



写真： GAM に出席した FIDIC 理事（左から 3 人目より Thomopoulos 次期会長、Boyd 会長、Enrico 事務局長）



特集： FIDIC-2008 ケベック大会報告

Plenary Session “ Views from outside ”

Dr. Pierre-Marc Johnson, Former Premier of Quebec

全体講演 「外界からの見方」 元ケベック州知事 ピエール マーク・ジョンソン博士

株式会社建設技術研究所 企画本部経営企画部長
技術研修委員会副委員長 金井 恵一

9月8日の大会初日は、オープニングセレモニーの後、第1回目の全体会議に入り、ピエール マーク・ジョンソン元ケベック州知事が「 Views from outside (外界からの見方) と題した講演を行った。

ジョンソン氏は、法律家兼内科医で科学的・論理的な思考を好み、エンジニアと一緒に仕事をすることが大好

きだと自己紹介をし、その理由として「科学的なアプローチ」「厳格な思考」「旺盛な知的好奇心」の3つのエンジニアの特質を上げた。

講演の冒頭、2006年9月にモントリオール近郊で発生した高速道路を跨ぐ陸橋の崩落事故に触れ、事故調査委員会を率いて原因解明にあたった経験から公共の安

全に関わるリスクの重大性をあらためて認識するよう訴えた。

講演のテーマはグローバリゼーションに集中し、「市場原理」と「エレクトロニクスパワー」に駆られた現代のグローバリゼーションの下では、商品、資本、アイデア、人の移動が飛躍的に拡大し、結果として、米国の金融問題にみられるように、今や国内問題でさえも一国の政府だけでは解決できない状況になっていると指摘した。また、急速なグローバリゼーションがもたらす懸念として3点を挙げた。第1点は、地球環境の問題で、大量の化石エネルギーの消費が地球規模の気候変動をもたらしており、全世界の排出量の83%を占めるG21諸国の対策が、その低減ではなく気候変動への適応策に偏っていることに不満の意を表した。2点目は人材の流動化で、良質なプロフェッショナル人材の国外流出と、外国からの人材流入による雇用機会の減少の両面から関心がもたれていることを指摘した。3点目は資本の匿名性の問題を取り上げ、今や企業の真の所有者の姿が誰なのか見えにくくなっており、そのため説明責任の所在が不明瞭になっていることが、本来あるべき市場の原理・

原則と矛盾していることに疑問を呈した。

こうした市場の巨大化に伴い、競争は激化しているが、一方で移動が自由になった資本は最終的に「品質」と「将来にわたる確実性」を求めるものであり、我々プロフェッショナルは、「忍耐力」「変化する世界への適応力」「循環する知識への適応力」を持つ必要があると訴えた。また、自分の会社が世界の変化に十分にスピード感を持って対応しているか、常に確認する義務がマネージャーにはあるとも指摘した。

公共部門との関わりにおいては、PPP(Public Private Partnership : 官民連携)などを通じて民間の哲学・ルール、説明責任などを浸透させるべく努力がなされているものの、まだまだ公共側の理解は不十分で、抵抗も根強いことを披露した。一方で、諸問題への解決策を提示してくれる者への評価・信頼は大きく、この点において Consulting Engineer(CE)は大きな強みを持っていると強調した。

最後に、エンジニアと一緒に仕事をする事の喜びに再び言及し、気候変動問題への対応におけるエンジニアの貢献に期待感を表明して、講演を締めくくった。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar1 Our Role in the Global Community セミナー1 グローバルコミュニティ におけるCE産業の役割

賛助会員 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 社会環境事業部
技術研修委員会名誉副委員長 竹村陽一 国際活動委員会 渡津永子

1. セッションの概要

日時：2008年9月8日 14:00 ? 15:30

場所：Salle de Bal, Chateau Frontenac

議長：Flemming Bligaard Pedersen, Ramboll,
Denmark

講演者：Jeffrey Russel, University of Wisconsin, USA
Sabine Engelhard, Inter American Development
Bank, Washington

グローバル化が進む中で Consulting Engineer(CE)産業はかつてなかったような影響力をもつ機会に直面しているが、同時にリスクにも遭遇する。本セミナーはグローバル経済の専門家が機会とリスクをとりあげ、CE産業がもてる専門知識によっていかに影響力をふるえるかを明らかにする。

参加者はこのような影響力がCE産業の利益だけでなく、社会が必要とする社会、経済および環境のインフラ

整備をとおして役立つことを学ぶ。

2. 講演 エンジニアリング教育のレベルを上げるとき : Russel 教授(ウィスコンシン大)

米国において過去数10年にわたって、エンジニアリング教育を改革する議論があったことに言及したのち、最近のASCE(米国土木学会)とNAE(米国エンジニアリング・アカデミー)による2つの調査を紹介し、米国の土木エンジニアが21世紀の挑戦に立ち向かうためには、エンジニアリング教育の強化が必須であるとの認識が広く高まったことを述べた。その概要は以下の通りである。

エンジニアリング専門職が身につけるべきこと

- ・ Organization(組織論)
- ・ Ethic of Professional Services(職業倫理)
- ・ Body of Knowledge(知識体系)

このうち、Body of Knowledge(知識体系)は知識、スキル、態度、実践が重要であり、自然科学、数学、社会科学、人文科学の4本の柱を基礎とし、その上の3層の構造からなる。

Body of Knowledgeを構成する4つの柱と3つの層
基礎(4つの柱);自然科学、数学、社会科学、人文科学
第1層;基礎的な工学(Technical);材料学、力学
から設計、Project Managementまで含む。

第2層;専門家としての実務(Professional practice)

第3層;深い専門工学(Deep technical)

現在のエンジニアリング教育の問題点は、履修年限4年、履修単位130と少ないことである。これに対し、医学、薬学、法律、会計などの専門職は時代とともに増加させている。ASCEの政策ステートメント465では、将来、土木エンジニアリングの専門職につく場合は学部以上の教育を修了するものとする。

最後に教授は、将来をどうとらえるか、に対して次の3点の切り口をあげた。

- ・ プロジェクトの複雑化(Increasing complexity)
- ・ グローバリゼーション
- ・ 公衆の健康、安全、福祉の擁護

3. 講演 グローバルコミュニティにおける米州開発銀行(IDB)の役割

: Engelhard 女史 上級調達専門家

ラテンアメリカとカリブ海26カ国を対象とし、1961-2007で1,560億ドルの貸付、プロジェクト総額は3,530億ドルに達するIDBの使命、価値理念、達成目標・方法などについて発表があった。

使命と価値理念(IDBの設立憲章より)

- ・ 持続する変革の触媒となる
- ・ 各国と全地域の経済・社会開発の加速に貢献する
- ・ 不正、汚職の撲滅を目指す
- ・ 倫理価値を政策や手続き形成の基礎とする

達成目標

- ・ 貧困低減
- ・ 最大多数への機会供与
- ・ 教育と技術革新
- ・ 水と衛生の対策
- ・ 気候変動対策としての持続可能エネルギー
- 援助に対する新しいアプローチ;関係者の間にパートナーシップ概念
- ・ 開発における各国の所有権の強化
- ・ 開発におけるより効果的な広いパートナーシップの構築
- ・ 開発効果をもたらし、説明責任をまっとうする

4. Q&A セッション

FIDICのJ.Boyd会長をはじめ、インド、ナイジェリア、ノールウエー、南アフリカなど7人の参加者から質問やコメントがあった。

CE産業の影響力が主題のセミナーであったので、IDBに対してFIDICは何ができるのかというJ.Boyd会長の質問は的を射たものと思えた。Engelhard女史は現地を知っているのはCEであり、専門職能をもって影響力を発揮できると答え、IDBはFIDICと対話を行ってきたし、これからも行うとのことであった。

エンジニアの訓練に関しては、設計や社会の問題を大学で教えることが、本当にできるかという疑問の声が挙がった。Russel教授は確かに教えることができないものはあるが、解析力やBody of Knowledgeを大学で身に付けることで、実務での能力アップが図れると答えた。

5.まとめ - 全体としての感想

CE産業の影響力という大きな問題は、一つのセミナーでカバーしきれものではない。エンジニアリング教育という一つの側面からこの問題を考える機会があったと理解すべきであろう。

未来に関して、従来からの知識だけでは十分でない現実があるという認識のもとに、CE産業がもてる力に新

しい力を養い、これを加えて、社会の現在ならびに未来のニーズに応えられるよう力強くなるべきだという思いを強くした。

なお、講演を予定していたカナダきってのコミュニケーション・コンサルタント Rick Petersen 氏が急用のためキャンセルされたのは残念であった。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar2 Environmental stewardship and sustainability セミナー2 環境への責務と持続性

株式会社日水コン 東京下水2部1課
国際活動委員会 赤坂和俊

日 時：2008年9月8日(火)14:00-15:30

場 所：Place d'Armes, Chateau Frontenac

参加者：約40名

Moderator：William A Wallace (USA)

Facilitators：Arthur Taute (South Africa),
Terry Bennett(USA),
Ed Nijpels(Netherlands)

1. セミナーの目的

本セミナーは、環境に対するこの挑戦の深刻な側面のいくつかを調査する。そして、コンサルティングエンジニアの役割を検討していくことを目的とする。

2. 概要

環境への責務や持続性(Environmental stewardship and sustainability)という視点が、これまで一般的に認識されていなかったし、政治的な支援においてもなかった。

一方、我々は、世界の人口が増加していること、再生可能な資源が有限であること、再生できない資源の量が少なくなっていること、等、多くの問題を既に認識している。

このような状況の中、ここでは、地球環境という大きな視点で、現在起こっている様々な変化(環境問題)に

ついて説明があり、コンサルティングエンジニアとして、今後考慮すべき環境に配慮したデザインや設計事例の紹介がなされた。

2.1 今発生している問題

(1) 現状

現在の経済発展の形は、持続可能なものではない。資源や環境容量が回復するよりも早く、それらを使い果たしてしまうだろう。

すでにリミットが近づいている。

(2) 環境変化

地球規模で前例のない環境変化が目に見えて発生しており、その変化は我々の想像を超えたスケールと速度で発生している。

都市域問題(都市スプロール現象、交通渋滞、水不足等)

数多くの自然災害の発生(洪水、干ばつ、地震、等)

(3) 障害

変化への無知と否定

エネルギーと資源集約型のテクノロジー(環境的に有害なテクノロジー)への投資

現在の成功や経歴を捨てることができない

現在の「快適さ」から外側に踏み出せない

(4) 問題点

非持続性がリアルで緊急な問題である。
 エンジニアリング産業は、独自で様々に発生している問題に対処する能力を有している。
 機会も多いが、しかし、障害も多い。
 これらの問題に対処するために必要なツールや方法論を開発する必要性

2.2 事例 (USA : Business Model Implications of Sustainability)

持続可能性のためのビジネスモデルの事例を紹介していた。

現在、持続可能なデザインが原則的に必要条件となっている。

BIM(Building Information Modeling)は、デザイン、コンストラクション、オペレーションー連としたプロジェクトに関する信頼できる情報によって築き上げられる統合化プロセスであり、このプロセスを導入することで、初段階から、持続性問題に対処している。

持続可能なデザインは、全てのプロジェクト(段階)でアプローチしなければならない。

Engineers、Architects、Contractors、Owners等は、プロジェクトプロセスにおいて持続可能なデザインと整合させねばならない。

設計のプロフェッショナルのためのものだけでなく、地球にとって正常なものという視点が重要である。

2.3 事例 (オランダ)

持続可能な青いエネルギー(海の潮流): 海水と淡

水の間塩濃度の違いからエネルギーを再生

高速道路に天蓋: 空気を改善して、騒音を減らす方法

病院施設の効率的な廃棄物管理システム: 生物処理を活用した廃棄物の処理システムによる廃棄物の削減

情報、探索(課題)、ビデオ、および教育的なゲーム等を活用した気候変動に対する対話型ポータル

の導入
 コンサルタントとしての役割は、次のように環境に対する働きかけが必要であるとコメントしていた。

コンサルティングエンジニアには、社会に提供できる様々な技術を有している。その役割も大きい。

コンサルティングエンジニアには、より大きな役割があり、もっと(中々腰を上げない)クライアントやオーナーに働きかけるべきである。

3. おわりに

環境問題に関しては、色々な状況をニュースなどで報じられている現象として見知っているのはいるが、現実的に一コンサルタントとして、技術的なアプローチ手法について、厳密に議論した経験は非常にまれである。

ここでは、環境に配慮したデザインや施設について、既の実施されている、若しくは提案されているものの事例紹介であり、非常に興味深いものであった。

コンサルティングエンジニアとして、すぐそこに迫ってきている環境問題に対して、現在携わっているプロジェクトがどの位置づけにあるのか、今後そういう視点でプロジェクトに関わっていきたいと感じた。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar3 Setting an example : Ethics and Integrity セミナー3 事例紹介：倫理と高潔さ

株式会社建設技術研究所 国際部
国際活動委員会 鍋木 孝治

1. セミナー概要

日時：9月8日、14：00 - 15：30

場所：Jacques Cartier 室にて

参加者：

モデレータ：Dr. Felipe Ochoa, FOA Consulting

FOA コンサルタント社(メキシコ) 会長

パネラー 1：

Mr. Exaud Mushi, NORPLAN Tanzania Ltd.

NORPLAN タンザニア社(タンザニア) マネジ
ング・ディレクター

パネラー 2：

Mr. Stephen Zimmerman, Inter-American
Development Bank

IAD Bank(アメリカ) OII(組織的高潔さ室)主任

パネラー 3：Mr. Renko Campen, DHV

DHV 社(オランダ) 社長

講演概要：

・モデレータ：FIDICの取り組みの歴史的経緯

FIDICでは早くから問題の重要性の気づき問題に取り組み始めた。その後、世界銀行も問題の重要性に気づき、FIDICの取り組みを支援している。この問題には「供給サイド」と「要求サイド」が登場するが、両者に対処して初めて解決がある。「供給サイド」にはBIMS (Business Integrity Management System)が、「要求サイド」にはGPIMS (Government Procurement Integrity

Management System)が対応策として準備されている。

・パネラー 1：被援助国の視点からの問題

能力のない者が事業に参加しようとする汚職がはじまり、結果的に品質の低い商品を受け取ることになる。開発途上国では、事業の多くが海外の企業により行われており、汚職を作り出しているのは海外の企業の責任も多い。国内での汚職を防ぐための法律的枠組みも整備しているが、技術者が汚職に手を染めないよう、能力を継続的に高めることも重要である。

・パネラー 2：融資機関の立場での問題への取り組み

融資機関では汚職防止のため専門の独立機関を設置して活動している。各種の手法を開発し、研究結果も公表に努めている。一方で、司法権がないため、捜査効率に限界があり、調査と防止のいずれに重点をおくかというジレンマもある。汚職を防ぐためには、調査 / 防止 / コミュニケーションをループでまわすことが重要である。

・パネラー 3：現在の主要な対策であるBIMSの有効性

BIMSはISOに従って作られ、ネットで簡単に取得できるが、一方、現実の社会では汚職がはびこっている。汚職の防止には各種情報の有効活用とともに、BIMSを更に発展させることが必要である。

Plenary Session Delivering Quality - Client 全体講演 品質の確保 - 発注者の視点

日本工営株式会社 民活プロジェクト部 部長
技術研修委員会副委員長 林 幸伸

1. 趣旨

9月9日朝の全体セッションとして9:00~10:30に開催されたもので、プロジェクトの品質に重大な影響を持つコンサルタントに対する発注者の視点を4人のプレゼンターに語ってもらう、という趣向であった。プレゼンターとなった発注機関は、1) Hydro-Quebec(カナダの水力発電事業者)、2) Rio Tinto Alcan(カナダの資源開発会社)、3) ヨルダン国アンマン市、4) シンガポール公共施設局、と多彩な顔ぶれであり、ウガンダのMBWコンサルタントのM. Patric Batumbyaがモデレーターを務めた。

2. 内容

各クライアントの事業内容およびコンサルタントへの期待と要望は以下の通りであった。

1) Hydro-Quebec(Real Laporte 関連企業社長):

ケベック州の発電・送電事業者であり、41,000MWの発電量を有する。97%が水力であり、水力発電所や送電線の建設においてコンサルタントとの関係がある。風力も増強中。

プロジェクトの成功で最も重要であるのはチームワークである。問題を素早く解決するクライアントのパートナーであるべきである。関係者との効率的なコミュニケーションを図り、ベストプラクティスの提供と共有を期待する。

2) Rio Tinto Alcan(Jean Simons 関連企業社長):

2007年にRio Tintoグループに併合された世界最大級のアルミニウムの資源開発会社。施設として、6つのボーキサイト鉱山、23のアルミニウム製錬所、13の発電所(内、水力は9箇所)を有する。

クライアントとのチームワークが重要である。コンサルタントはプロジェクトの技術面での目的を、環境側面や経済的側面を最適化しながら達成する使命を持つ。エンジニアリング企業はプロジェクト品質の中核(センター)である。最適ナリソース(人材)の

投入やマネジメントツールの活用が必要である

3) ヨルダン国アンマン市(Omar Maani アンマン市長):

アンマン市の人口は現在約200万人であるが2025年には600万人を超える成長が見込まれている。古都であるが若年人口の比率が高い。現在、居住者や訪問者に優しい生活環境を優先した開発が進められている。

開発計画にはコンサルタントが大きく関与するが、利用者である人間を本位とした街づくりを目指している。行政サービス、経済活動、環境、衛生、教育、社会的公正が都市機能のレベルを計るためのベンチマークである。

4) シンガポール公共施設局(Young Joo Chye 副局長):

シンガポールでは「水」は大変貴重な資源であり、雨水利用、人口貯留、海水淡水化、水再利用を通じて、水の安定供給を目指している。ABCプログラム(Active, Beautiful, Clean)の基で、水関連インフラの開発が進められている。

開発の成功のためには、発注者、コンサルタント、コントラクターの3者パートナーシップが不可欠である。過去の経験から、あらゆる階層におけるオープンなコミュニケーション、最適ナリスク配分、機能ベースのスペック、複合的アプローチ、品質を考慮したパートナー選定が重要なポイントである。中立的で独立性のあるコンサルタントが必要。

3. まとめ

プレゼンテーションにおいて、度々語られたキーワードは「チームワーク」、「コミュニケーション」、「クオリティ」、「パートナーシップ」であった。特に、コミュニケーションの重要性が各氏から強調され、クライアントとしてコンサルタントとの密接なコミュニケーションを渴望していることが印象的であった。コンサルタント業界として、反省すべきヒントがあると感じた。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar & Workshop4 Communication : a core competence セミナー&ワークショップ4 コミュニケーション：競争力のコア

株式会社オリエンタルコンサルタンツ GC事業本部副本部長
藤岡和久

日 時：2008年9月9日

セミナー：11：00～12：30,

ワークショップ：12：30～14：00

場 所：Salle de Bal, Chateau Frontenac

議 長：Geoff French, Scott Wilson, UK

話題提供者及びワークショップファシリテーター：

Debra Rubin, Editor-at-Large, Engineering News Record, USA

James Bremen, Partner Maxwell Winward, London, UK

Suzanne Stevens, President & Founder, Ignite Excellence, Canada

サービスのクオリティが、クライアントの要求を理解する能力に左右されるものであるならば、コミュニケーション力はクオリティのカギとなる。事実、過去の経験から、コンサルタントに対する契約上の争議、要求事項、及び訴訟の大部分は純技術的事項ではなく、コンサルタントとクライアント、時には公定機関との間の異なる要求によるものが殆どである。そのような問題に対する解決策は、技術的、科学的、或いは環境保全型的な観点からのみではなく、社会的、経済的及び政治的な期待に応えられるかによるものであることが多い。これらの要求に応えるためには、エンジニアリングコンサルタントにおける職業人にとって、それらを科学的に説明できる言語能力と、社会及び顧客のニーズとの折り合いをつけられる能力を身に付けることが求められる。

1. セミナー

本セミナーは、顧客満足、商業的成功及び公共政策との妥当性に関して、コミュニケーションの重要性を検討するものであった。

まず始めに、顧客とコンサルタントの関係とプロジェ

クトを成功させることに関して、コミュニケーションが如何に重要であるかを3人の専門家からの事例によるプレゼンテーションを頂き、その後それぞれの専門家の指導によるワークショップを行った。

< Debra Rubin, Editor-at-Large, Engineering News Record, USA >

- エンジニアにとって「語る」ことは何故必要か -
メディア(出版物やインタビュー)を上手く使いこなす
エンジニア自身が発信情報の鍵を握る
プロジェクトマネージャーに要求される重要な役割

< James Bremen, Partner Maxwell Winward, London, UK >

- コミュニケーション クオリティの改善 -
契約交渉時

関係者の合意を反映した明瞭な書類の作成と交渉に時間をかけ、合意内容をチェックする
後日に問題を先送りしないように、初期段階で難しい問題を討議する

文化的バックグラウンドの違いと明らかにする
プロジェクト実施期間

プロジェクト実施及び契約の管理

- i. 契約管理を行う人間が契約交渉を行うべき
- ii. 個別の契約に対する管理手順
- iii. 契約と管理を理解する十分な時間の必要性



その効用

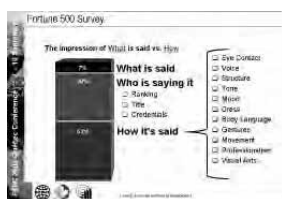
- i . 問題点の早期発見
- ii . コミュニケーションを取る担当者の明確化と問題の早期解決
- iii . 解決策が見つからない場合の、表面化した紛争に対する担当者のポジショニング

問題発生時

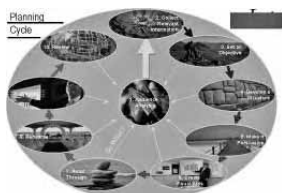
契約管理システムが問題点を早期発見できる場合問題に対して対立するより協調することを明言する妥協を受け入れ、他者の期待を理解する忍耐強く聞く

< Suzanne Stevens, President & Founder, Ignite Excellence, Canada >

- 焦点に着火する: 最も伝えたい事項を効果的で魅力あるプレゼンテーションに込める -



・聞き手の興味は何か？



・効果的なプレゼンテーションのプランニングサイクル

2 . ワークショップ

後半のワークショップでは、以下3つのテーマに対し4グループに分かれ、それぞれ討論と最後にグループ毎の発表を行った。

それぞれのトピックに3～4の討論小題があるため、個別に討論を掘り下げる時間がなかったことが残念であったが、それぞれのグループでは、活発な議論が展開された。

<トピック A >

エンジニアは良きコミュニケーターたる適性を持っているか?もし無いのであれば、どのようにそれを備えるか?もしコミュニケーションがエンジニアリングの基本的

学位であったならば?

報道は全て良い報道か?

プレスは敵か味方か?

<トピック B >

契約文書において、顧客とどのように敵対関係を作らず目的達成を明記できるか?

プロジェクトの争議発生時に悩まされないよう、Eメールや連絡文書をどのようにマネージするか?

契約文書に使用する言葉に対する共通の理解を、コンサルタント、オーナー、及び請負業者間でどのように得られるか?

プロジェクト実施期間中、異なる文化における最良のマネージ方法は何か?

<トピック C >

「信頼されるアドバイザー」の意味は何か?

「社会へのアドバイザー」として信頼されることからの阻害要因は何か?

「信頼されるアドバイザー」になるための必要な技術は何か?

3 . おわりに

プロジェクトの遂行や競争力を発揮する上でのコミュニケーションの重要性は、我々も十分理解している。またそれらに関するセミナーも日本国内で多数開催されているが、日本以外の国で、多数の外国人と一緒にこのテーマで参加・意見交換するのは、また違った雰囲気があり意義深いものを感じた。日本人にとっては、このような環境のワークショップ参加には、言葉の問題もあり不慣れであるが、このような「他流試合」へ積極的に参加し、「技を磨く」ことは大切であろう。



特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar & Workshop 5 Choosing economic and environmental sustainability

セミナー&ワークショップ5 持続可能な経済・環境を選ぶ

株式会社日水コン 東京下水道事業部副事業部長
政策委員会副委員長・技術研修委員会幹事 春 公一郎

日 時：2008年9月9日（火） 11:00～12:30（セミナー） 14:00～15:30（ワークショップ）

場 所：ホテル・シャトー・フロントナック Place d'Armes

議 長：廣谷 AJCE 会長

講演者：Peter Steblin（カナダ・コクイットラム市）
Linda Newton
（カナダ政府・Defense Construction）
中川茂雄参事（日本・国際協力銀行）

1.はじめに

廣谷 AJCE 会長が議長を務めたセミナー及びワークショップである。品質と持続可能性は極めて密接に関係しており、経済的・環境的に持続可能性の高いプロジェクトを実現するためには、ハイクオリティなコンサルタントに委ねるのが道理であり、そのためには QBS（Quality Based Selection：品質・技術による選定）が不可欠なのだという趣旨であった。セミナーの講演者はクライアント・金融機関の方々であり、よき理解者からのエールと受け取れる内容であった。

2.品質への旅路～コンサルタント選定方法のトレンドと実践例（ピーター・ステブリン）

カナダでは従前 QCBS（Quality and Cost Based Selection：品質・技術と価格による選定）によるコンサルタント選定が行われてきたが、昨年のシンガポール大会で、QBSに移行しつつあるとの話があった。ステブリン氏の講演は、この話を裏打ちするものであり、まさに自身が QBS 導入に尽力してきた経緯を辿る内容であった。

氏は、カナダ・ロンドン市在職時代の 2004 年、QCBS 方式の改善に着手し、関係者や市民との対話

を進めていった。その背景には、ライフ・サイクル・コスト（LCC）において設計費は 1% に満たないのだから、イノベーションの促進や LCC の低減を図っていくため、コンサルタントという職業を尊重し、発注者とコンサルタントとの協力体制を強化していくべきという信念があった。ついで氏は、市町村で構成される協会から 2006 年に発行された「インフラガイド」の編纂に関与することとなり、その中で、QBS をコンサルタント選定の推奨方式として明確に提示した。この「インフラガイド」はカナダの各自治体が参考とするものであるため、QBS の全国的な水平展開に大きく寄与する成果と言える。このような努力の結果、2007 年にはロンドン市における全業務について QBS 方式が適用されることになった。これにより、市職員の経費や契約手続きに要する時間を削減することができたという。全国的にはまだまだ緒に就いたばかりの QBS 方式だが、氏は現在、コクイットラム市で QBS 導入を進めているところである。

コンサルタントに対するリスペクトを持ちつつ氏は、リスクを取る者がいないことが最大の課題と問題提起し、声を発し、発注者に信頼されるチャンピオンになれとの叱咤激励で講演を締めくくった。

3.品質が良くてもゴミはゴミ（リンダ・ニュートン）

ニュートン氏は、カナダ連邦政府の Defense Construction Canada（DCC）なる省庁の方である。DCC は国防省のみを対象とした営繕部的な役割を担っている部署のようである。国防省関連施設に係る永年に渡る実績が蓄積されていることから、貴重なデータをふんだんに活用し、定量的に品質というもののあるあり方を提示してくれた。

氏は、品質と一口に言っても、インフラの場合、

「性能」「信頼性」「耐久性」「有用性」「外観」「適応性」「知覚品質」といった多様な側面から捉える必要があると主張する。そして、設計がライフ・サイクル・コストに与える影響の大きさを示し、設計段階の重要性を説いた。また、「安かろう悪かろう」を示す事例として、次のような国家防衛局（DND）による調査結果を紹介した。

建設費が安いほど、維持更新費がかかっている
最近の建物ほど建設費は安いが維持更新費がかかっている

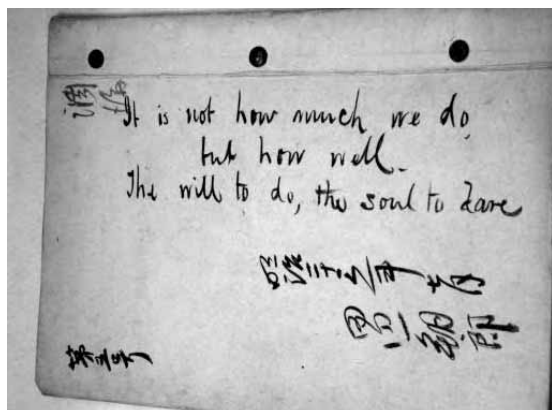
設計品質をスコア化し相関をとると、品質の低い方が維持更新費がかかっている

この調査結果から、如何に設計における品質を確保するかが重要と結論づけ、コンサルタントと発注者は一丸となって、設計要件の重要性や、エンド・ユーザやLCCに対する影響力を認識しなくてはならないとした。

4. どれだけ多くやるかではなく、如何に良くやるかが大切（中川茂雄）

昨年のシンガポール大会からFIDIC大会に参加頂いている国際協力銀行（JBIC）だが、今年の中川茂雄参事からQBSにまつわる講演を頂戴した。QBSを堅持しているJBICも、他の援助機関の動勢を踏まえた時、QBSのみという選定方式の維持が困難となりつつあるという悩ましい胸の内を吐露される内容であった。

氏は冒頭、明治初期に京都で琵琶湖疏水を開通さ



It is not how much we do, but how well (田邊朔郎)

せた土木技術者田邊朔郎を紹介し、講演のタイトルである彼の言葉「It is not how much we do, but how well」を引用して、インフラにおける量より質の重要性を訴えた。

ついで、JBICの援助プロジェクトにおけるコンサルタント選定方式は、現時点では基本的にQBSのみであり、質を重視している姿勢を示した。

一方、世界銀行やアジア開発銀行等、国際融資機関ではQBSとQCBSの折衷型をとる趨勢にあり、また、JBICと同じようなパイラテラル融資機関（ドイツKfWやフランスAFD）においてはQCBSが基本になっている。さらに、2005年の援助効果にかかるパリ宣言では、ドナーが援助先の制度を尊重することを求めているが、途上国サイドにおいてもQBSのみでコンサルタントを選定している国はない状況にある。

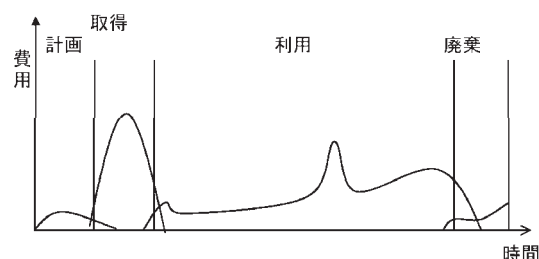
このように、QBS方式のみという選定方式を堅持していくには誠に厳しい環境にあるが、公共事業の調達においては、品質とコストのバランスを図り、透明性やアカウンタビリティを確保することが肝要であること、更に、ボーダーレス化する世界にありながら、技術力や制度、認識には歴然とした地域差があることを踏まえ、情報交流や啓蒙が必要であることを強調した。

5. ワークショップ

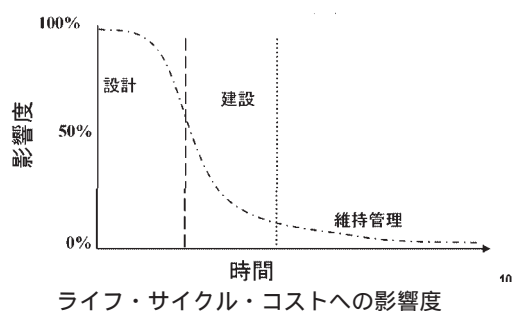
セミナー後の午後、ラウンドテーブル・ディスカッションが行われた。3つのグループに分かれ、4つのテーマに沿った議論が交わされた。以下に主要な意見を紹介する。

品質と持続性の関係を計測し示すには？

品質は長期のサービスを意味し、それは持続



ライフ・サイクル・マネジメント



可能性につながるので、基本的に品質と持続可能性はイコールと考えられる

持続性は、LCC やCO2削減量、省エネ量などの性能で計測すべき

FIDIC PSM (Project Sustainability Management : プロジェクト持続可能性管理) のインジケータを活用し、持続性を定量化すべき

投資と持続性の関係について発注者に理解してもらうには？

持続性とその便益の関係や成功例を示すことが必要

各国協会はもっと発信すべき

発注者のみならず、住民に対する啓蒙も必要

持続性の原則を業務仕様や契約に組み込むには？

目標及び認識の共有化が必要

標準契約書を早急に準備すべき

コンサルティング・サービスの調達において QBS を推進していくには？

ベスト・プラクティスを示すことが必要

QBS による便益を定量化することが必要

市民に対する PR をすべき

6. おわりに

世界銀行がコンサルタント・ガイドラインを改訂し、QCBS 導入の方向に舵を切ったのは、1996 年のことである。それから 10 年余り、世界銀行に追随する形で、各国際融資機関は QCBS の導入を図ってきた。しかしその一方で、カナダでは QCBS から QBS への移行を成し遂げようとしている。大きな援軍である。北米大陸は QBS の最後の砦になるのかも知れない。また、シンガポール大会では、世界銀行でも (QCBS 導入のせいではないという前置きをしつつ) 品質の低下を嘆く話があった。QBS と QCBS にはそれぞれ一長一短があり、ものごとに絶対ということが無い以上、今後も品質とコストというトレード・オフの間で揺れ動いて行くことだろう。

一方、我が国の国内プロジェクトに目を転じてみれば、多くの場合、CBS (Cost Based Selection 価格による選定) という世界でも類を見ない方法でコンサルタント選定がなされている情けない実状である。この手のワークショップに参加し、その状況を説明するたび、誠に肩身の狭い思いをしている。講演者が熱く語ってくれたように、QBS の意義について発注者や国民の理解を得るよう、我々エンジニア並びに協会が繰り返し声を発し続けて行かなくてはなるまい。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

It is not how much we do, but how well

国際協力銀行 プロジェクト開発部 課長
宮尾 泰助

国際協力銀行 プロジェクト開発課 参事
中川 茂雄

FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September

It is not how much we do, but how well


Taisuke MIYAO Director
Shigeo NAKAGAWA Advisor

Procurement Policy and Supervision Division
Project Development Department
Japan Bank for International Cooperation (JBIC)
(s-nakagawa@jbic.go.jp)
From October 1, 2008
Japan International Cooperation Agency (JICA)
(Nakagawa.Shigeo@jica.go.jp)



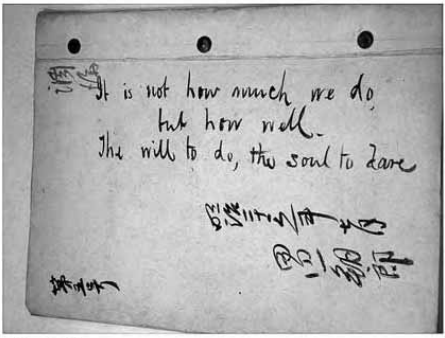

FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September

1. Introduction
2. QBS/QCBS
3. Information Sharing



FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September

1. Introduction



FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September

1. Introduction



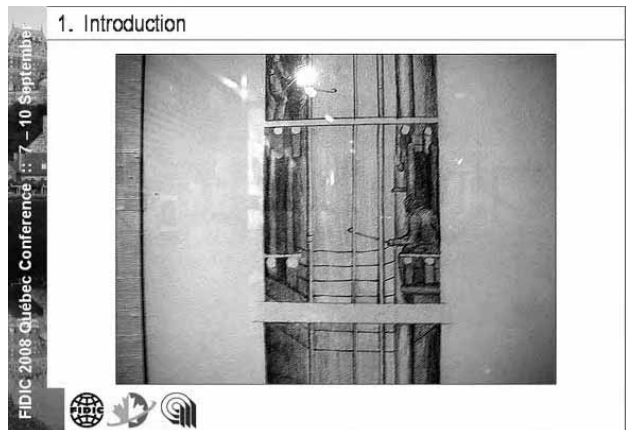
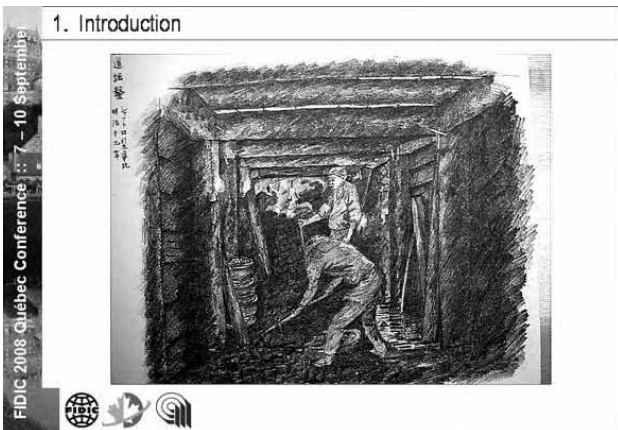
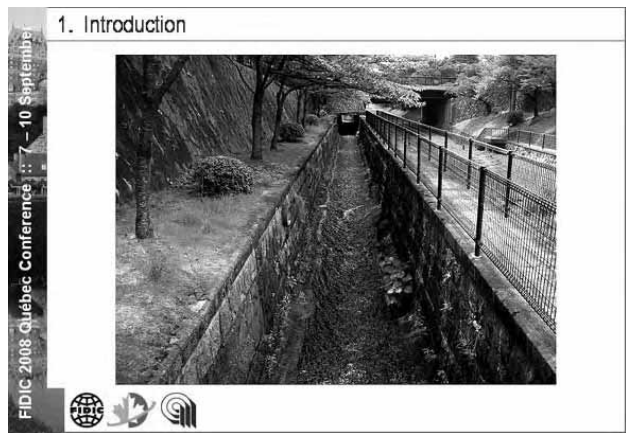
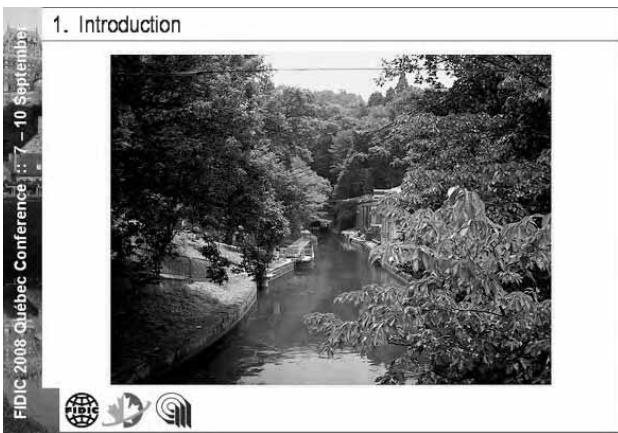

FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September

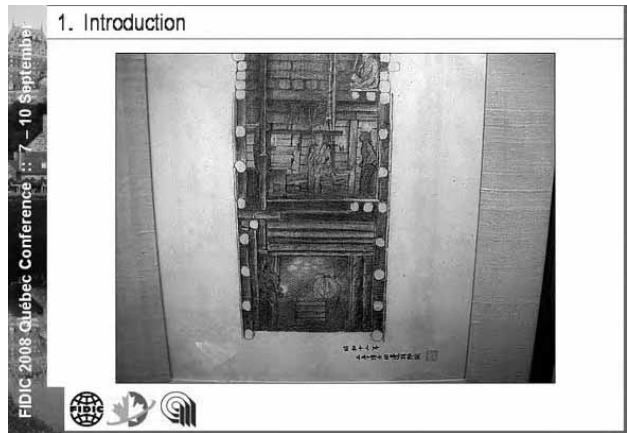
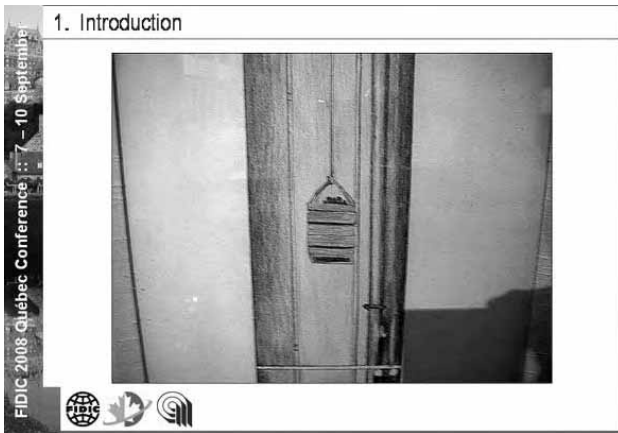
1. Introduction

FIDIC 2008 Québec Conference :: 7 - 10 September





2. QBS/QCBS

Consultant Selection in Developing Countries

Owner's capacity: limited in terms of human resources, technology and language
 Political intervention: possible
 Mass media: relatively weak
 Financer's review: limited involvement

FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

Japanese ODA Loan : Consultant Selection Method

QBS Only

Discussions concerning costs shall be conducted only after the highest ranked consultant is invited.

(Sec. 3.01 of the Guidelines for the Employment of Consultants)

FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

World Bank : QCBS

QCBS is the most commonly recommended method [Guidelines 1.5]

Because under QCBS the cost of the proposed services is a factor of selection, this method is appropriate when [Consulting Services Manual 9.3.1]:

- the type of service required is common and not too complex;
- the scope of work of the assignment can be precisely defined and the TOR are clear and well specified;
- the Borrower and the consultants can estimate with reasonable precision the staff time, the assignment duration, and the other inputs and costs required of the consultants;
- the risk of undesired downstream impacts is quantifiable and manageable; and
- the capacity-building program is not too ambitious and easy to estimate in duration and staff time effort.

Guidelines: Selection and Employment of Consultants by World Bank Borrowers (May 2004 revised October 2006)
 Consulting Services Manual 2006

FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

World Bank : QBS

QBS is appropriate for the following : [Guidelines 3.2]:

- complex or highly specialized assignments
- assignments that have a high downstream impact and in which the objective is to have the best experts.
- assignments that can be carried out in substantially different ways, such that proposals will not be comparable.

FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

ADB : QCBS

Asian Development Bank
 QCBS: ADB's preferred method [Guidelines 1.5]

Since under QCBS the cost of the proposed services is a factor in the selection, this method is appropriate when [2.2]

- the scope of work can be precisely defined,
- the TOR are well specified and clear, and
- ADB or the borrower and the consultants can estimate with reasonable precision the personnel time as well as the other inputs required of the consultants.


Guidelines on the Use of Consultants by Asian Development Bank and Its Borrowers (February 2007)

FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

ADB : QBS

QBS is appropriate when [Guidelines 2.23]

- (i) assignments are complex or highly specialised making it difficult to define precise TOR and the required input from the consultants,
- (ii) assignments where the downstream impact is so large that the quality of the services is of overriding importance for the outcome of the project, and
- (iii) assignments that can be carried out in substantially different ways such that financial proposals may be difficult to compare.




KfW (Germany)

In this two-stage procedure the consultant who has made the best offer in regard to quality of services and price will be chosen in competition between preselected applicants.

[Guidelines 2.01]


Guidelines for the Assignment of Consultants in Financial Cooperation with Developing Countries
(November 2006)



AFD (France)

Generally, limited bidding should be the rule. The selection is generally based on quality and cost, with weighted technical and financial proposals.


AFD Finance Procurement in Foreign Countries: Intervention Principles (January 2007)



Paris Declaration on Aid Effectiveness (March, 2005)

Donors commit to:

- (1) Progressively rely on partner country systems for procurement when the country has implemented mutually agreed standards and processes.
- (2) Adopt harmonised approaches when national systems do not meet mutually agreed levels of performance.




Selection Methods in Borrowing Countries 1

1. QBS and QCBS

India: QCBS : Under normal circumstances
QBS : May be used in cases of the assignment is of very complex nature, etc.
Other methods

Indonesia, Pakistan, Philippines: QBS, QCBS and other methods




Selection Methods in Borrowing Countries 2

2. Two Envelope Bidding System

Morocco: Simple cases: Technical Selection → **Lowest submitted cost**
Complex cases: Technical Selection → **Highest score** (Technical and financial points)

Sri Lanka: Technical Evaluation → **Financial analysis of economical bid** to decide the appropriateness of the price




Selection Methods in Borrowing Countries 3

3. Merit Point System

Tunisia: Simple contracts: **Lowest tender**
Complex contracts: **Best offer in technical and financial aspects**

Vietnam: Technical requirements are not high: **Highest overall point score** (Technical aspects: not less than 70%)
Technical requirements are high: **Highest technical point**




Selection Methods in Borrowing Countries 4

4. No QBS Method

Bangladesh: The two preferred methods are QCBS and Fix Budget Selection.

Peru: The selection method is QCBS under Peruvian Laws.




FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

QBS : Challenged

Is QBS best method?
Quality based evaluation → Negotiation → Contract

Evaluation:

Negotiation:
How could we justify price after contract ?
How could we justify Man-Month (M/M) adjustment?
Is it time consuming ?




FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

Consultant Selection

Feasibility Study → Detailed Design → Supervision

Same: Continuity, Consistency
But, check and balance
Direct Contract : Not transparent
Proposal Competition: effective ?

Could DAB/Assessor mitigate the risk?




FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

Consultant Selection

Evaluation of experience

Change of personnel




FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

Balance between Quality and Cost:

Consideration of life cycle cost
Merit point system
Environment consideration
Safety measures

Public Procurement: transparency and accountability
↔ Confidentiality




FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

3. Information Sharing

In 21st century, the World has become flat, though...
Still huge gap of technology, system and perception.

Need to work for: More Enlightened
Owner, Financer, Government Administrator, Media
Congress, and Tax payers



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

3. Information Sharing



©2008 Nikkei Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

3. Information Sharing



©2008 Nikkei Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 September

3. Information Sharing



©2008 Nikkei Business Publications, Inc.



3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

3. Information Sharing



©2008 Nikkel Business Publications, Inc.



FIDIC 2008 Québec Conference : 7 - 10 Septembre

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar & Workshop6 Does Risk Transfer Threaten Quality?
セミナー&ワークショップ6 リスク転嫁は品質を脅かすか？株式会社日水コン 河川事業部 副事業部長
国際活動委員会副委員長 蔵重俊夫

会議名：「リスク転嫁は品質を脅かすか？」

日時：H20年9月9日 11:00 - 15:30(昼食を挟んで前半がセミナー、後半がワークショップ)

場所：Fairmont Frontenac Le Chateau Hotel, ケベック市, カナダ

議長：Adam Thornton, Dunning Thornton, NZ

プレゼンター：Derek Holloway(ENCON,カナダ)、
Peter Ventin(UMA/AECOM,カナダ)、
Nicola Grayson(ACEA,豪州)

1. 議長説明(Adam Thornton)

議長は、“ 技術は二つのタイプの人間によって支配される。一つは自分自身ではマネジできない技術を理解できる者、もう一つは自分自身では理解できない技術をマネジする者(Putt's Law and the Successful Technocrat by Archibald Putt)”と、前者をコンサルタント、後者をクライアントとした比喻を紹介し、結果的にクライアントや社会の利益につながるリスクの分担が必要と強調した。そのうえで、保険家、コンサルタント、弁護士の観点からリスク転嫁と品質の関係について考察し、いくつかのテーマに関するグループ討議を行うワークショップの進め方について説明した。

2. 保険会社からみた考察(Derek Holloway)

保険会社のDerek氏による説明では、品質とは見方に依存するという前提を置き、品質とは何かについて、外観、機能、耐久性、性能、維持管理性と定義した。そして、コントラクターやコンサルタントに転嫁される代表的なリスクは利益・性能・遅延・プロジェクト上の欠陥である。伝統的な契約形態においては、その転嫁は、コンサルタントとコントラクターに分配されて転嫁していたものが、DB(Design-Build : 設計・施工一括発注方式)になるとデザイン・ビルダーに一括転嫁され、さらにコンサ

ルタントに転嫁される。そして PPP(Public Private Partnership : 官民連携)では、コンソーシアム等のプロジェクト遂行会社にリスクが転嫁され、そしてそこからコンサルタントやコントラクターに分配される。リスク転嫁の具体的な方法は、賠償とペナルティである。コンサルタントがこのように転嫁されたリスクをコントロールし、品質を確保する方法は、良好なコミュニケーション、書面主義の徹底、充実した交渉、リスク考慮の報酬確保、リスクに応じたプロジェクトの取捨選択といえる。リスク管理への提言は、リスク管理アドバイスを受けること、保険証券や適用除外事項の記載を知ること、保険料を支払うこと、受け入れ可能なリスクを選択することである。



リスク転嫁のルート

3. コンサルタントからみた考察(Peter C. Ventin)

コンサルタントを代表して講演した Peter Ventin 氏によると、コンサルタント業務や建設契約の世界的な趨勢は同じ失敗の繰り返しであり、慢性的なプロジェクトの遅延、資金不足、不適切な予算措置や投資スケジュール、コスト増の後追いの認知、地域の読み切れない反応、仕様の後追いの変更、低価格入札、マーケットの縮小などによって業界の活力が失われている。

特に、大規模なプロジェクトとなると、唐突に巨額の資金投入がなされたり、小さなプロジェクトに適用された統括方式がそのまま大規模なものに適用されたり、大規模プロジェクト経験のない職員ばかりで対応したり、調達方法・保険・約款等も大規模化に適應していない

場合がある。一般に、リスク軽減策は、回避、危機対応資金、契約的転嫁、リスク低減策、保険、リスク管理などであるが、大規模プロジェクトの場合、リスクの再現性、政治、資金、資産、コスト、工程、品質、責務、地域、契約約款など、様々な側面から対応の検討が必要とされ、要員をしっかり訓練する必要がある。

リスク転嫁のメカニズムとしては、クライアントによる無理な工程・予算・仕様の押しつけが典型的であり、コンサルタントとしては、革新的技術の適用凍結、予算相応設計、既存実例方式の適用などの対応が必要とされる。また、契約時のリスク回避、保険、危機管理資金などの伝統的なリスク管理手法に加え、効果的なリスク管理プログラムの開発や組織全体での対応を図っていく必要がある。

4. 法律家からみた考察 (Nicola Grayson)

豪州コンサルタント協会 ACEA の国家政策マネージャー Nicola 女史は、契約そのものの法的解釈から斬新な目でリスク管理のあり方を提言した。

まず、契約とは法の支配を受ける合意のことであり、2つ以上のパーティによる義務を定めたもので、その範囲で自由に取り決めうる私的領域の行為である。そして、契約の理論的な目的は、一貫性をもち、明白で、確かな取り決めとして、権利と義務の配分を含む総合的な合意を行うものである。また、その合意過程で、ビジネス関係を構築し、互いへの期待を設定し、リスクや紛争を低減させるものである。

現実には、契約は公正で公平な取引 (fair and equitable bargain) でなくてはならないが、コスト増、損害を招きくようなコンサルタントの注意義務や技術・知識以外に起因するリスクに晒されるケースがみられる。その一例が、コンサルタントサービスやその関連で生じたあらゆる環境汚染のクリーンアップの押しつけにみられるリスク転嫁である。

そもそもコンサルタントが売るのは、公正で公平な契約からもたらされる便益である。そしてこの考え方を実現するため、実際にコンサルタントが実施すべき事項、管理できないリスクによって被るコスト、簡単にリスクを価格化したり、覚悟があれば乗り切れるといっ

たことは間違った考えであること、リスク転嫁によってリスク管理できたとするのは神話とみなすこと、保険で埋められないギャップを説明すること、が重要である。そして、あくまでサービスを売ること、そうすれば、顧客とよりしっかりした関係構築となる。また、公平な契約はより良い協力関係・品質・革新的提案につながる。

そのため、責務の制限は重要であるが、それによって弁済される損失額も明確となるという好意的見方がある一方、怠慢としかいえない行為による損失に対して、なぜ責務の制限が必要かという見方もある。それに対する法廷の見解は、背後の事実関係、交渉がなされた際の状況、交渉の経過、各パーティが知っていた客観的事実、何を言い、記載し、行ったか、その他法廷での尋問に関する事項であり、関係者の事実行為と書面として残された文書がキーである。

ACEA では、色々な紛争を乗り越え、約款上に責務の制限を盛り込むこととなった。その制限事項は、賠償金額の上限に加え、賠償責任期間の両面で設定され、この約款は法廷で「標準」として認知された。

5. グループ討議

昼食後に行われたグループ討議は、議長より提示されたリスク管理に係わる様々なテーマについて、ワークショップ参加者を4つのグループにわけて議論するというものであった。テーマは、以下のようなものである。

リスクの認識度合い、コンサルタントのリスク回避の資源や権威、不適切なリスク転嫁による品質や倫理への影響、リスク受諾に必要な十分な報酬、前向きで有益なリスク転嫁と不適切なものとの識別、不適切なリスク転嫁に関するエンドユーザーたる国民の関心、

業界の新たなリスクとして革新的技術や品質の制限、コンサルタントへのペナルティとしてのリスク転嫁、品質の定義、低価格で脅かされている品質問題、戦略的なパートナーとして品質を提供するコンサルタントは、品質を高めるための最重要の行動、品質を高めるためのクライアントの最重要の行動、コンサルタントへの世間の批判に答えるためのFIDICやFIDIC会員協会の行動、契約交渉できるエンジニア能力を確保するための方策等々

議論の結果は、終了間際に駆け足であわただしく報告されたが、どのグループも何らかの結論に達したわけ

でなく様々な議論が噴出し、その意味で意義のあるワークショップであった。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Plenary Session Building Strong Organization
全体講演 堅強なCE企業の構築に向けて

AJCE 事務局長 **山下佳彦**

日時：2008年9月10日 9:00 ~ 12:30

場所：Salle de Bal, Ch. Frontenac

議長及び講演者：

議長 Pablo Bueno Thomas, FIDIC 理事

講演者 本文のとおり

参加者 約100名

はじめに

全体会議は、「堅強な Consulting Engineer(CE)企業の構築に向けて」をテーマとし、4名の著名なCE業界のリーダーが、企業がいかにその人的資源を活用し、利益を確保し、社会に発信し、品質の高い成果を提供してゆくかを報告し、これに続いて開催されるセミナーやワークショップの基調とするものであった。その切り口として、企業利益の確保と持続性、継続的な計画に基づく人的資源への投資、CE業界を支援するための社会の役割、社会へのPRなどがあげられた。以下に各スピーカーの報告を紹介します。

1 .Mr. Rick Firlotte, Golder Associates 社長,

Canada

Golder Associates社は1960年カナダオンタリオ州に、地質関連の小規模な専門コンサルタント企業としてスタートし、現在、グループ全体で社員7,000名、世界32カ国で事業を展開している。

企業規模を拡大する上での理念は、グループが持つ世界的な情報や資源を活用し、それを地域に活かすことで競争力を高めること、とのこと。世界展開している

利点は、世界各国のクライアントのニーズに応えられること、地域独自の強みに加え世界的な人的資源を付加できること、技術移転と資源の共有を図れること、社員の機会増大と忠誠心の向上、成長機会の増大、世界の多様な市場や経済に対応可能なこと等があげられた。

世界展開して成功するための秘訣は、各地域の実績と組織全体の適正なバランスとブランド力のアップ、中央集権でなく地域ごとの決定権の付与、分かりやすく明確なビジョンと行動計画、コアとしての倫理観の高さなどが上げられた。この関連で講演者は、世界各国のクライアントとの信頼関係の促進、技術開発(イノベーション)と得意技術の共有、共通の会計システムや内部監査の導入、社員全員の経営参加(ownership)が成長のコアである、と報告された。

2 .Mr. Pierre Shoiry, GENIVAR 社長, Canada

GENIVAR社は1988年に設立当時280名でスタートし、2006年までに23社を吸収合併しており、現在3,400人の社員を擁している。カナダ国内に80事業所を持っているものの、海外には事務所をもたない。2008年の売上は、3.5億カナダドル(約360億円)で、2006年から、現在まで毎年25%成長を続けている、とのこと。

経営で重視している点は、人材への投資、やる気を持たせる職場環境づくり、企業経営への参加機会、社会からの評価、クライアント優先などが上げられた。

人材への投資については、優秀な人が魅力を感じ入社し、入社後は着実にキャリアビルドし会社に残り続けることが肝要とのこと。このため、社員との日常的なコ

コミュニケーションを図り、仕事量のバランスをとる、業
 的なチームを編成する、武器となるツールを開発する、
 社員の定期的な訓練を実施する、起業精神を育む等が
 あげられた。

3 .Mr. Martin Nielson, Scott Wilson 役員, UK

「統合がもたらす便益: Profit from Integration」と題して、
 プレゼンが行なわれた。企業の統合により、変化する市
 場に迅速に対応できること、効果的なプロモーションが
 できること、技術的・経済的なアドバンテージを得ること
 ができ、最終的な便益は、CE 業界が確固たる競争力を
 持つことである、と力説された。統合による成果として
 は、利益と業務効率の向上、廃棄物の削減、安全基準
 の向上、事業リスクの低減があげられた。

統合された業務の実施を阻害する要因として、企業
 文化の相違、能力と規模の相違、調達方法の相違、コ
 ストと価値のバランスの欠如などがあげられている。こ
 れらの阻害要因に対し、会員企業はクライアントに信頼
 されるアドバイザーとなり、入札では「チームの特定」を
 促進させる、一貫性のない契約書に対し断固反対する、
 公平な契約条件を求める、瑕疵担保保険に上限を設定
 する等につき、協調してクライアントの理解に努める必
 要がある。FIDIC に対する要望として、契約約款の普及
 により一貫性のない契約書を排除すること、品質による
 選定を促進すること、これらを各国政府に要請すること
 などがあげられた。

4 .John Dionisio, AECOM 社長, USA

AECOM 社は吸収合併を繰り返し大きくなった会社で、
 現在 100 カ国に事務所を置き、41,000 人の社員を擁し
 ている。昨年の売上は 47 億ドル強(約 5,000 億円)で、
 45%は米国、アジア・太平洋が 22%、ヨーロッパが 12%
 となっている。グローバルな企業であり、社員数と売上
 の半数以上は、海外である。

企業のビジョンを持続するための方策として、規模の
 大きさより「より良く」を目指す、企業目的と社員への約
 束に対し正直であること、クライアントには満足行く成果
 を提供し、社員にはリーダーとして成長する機会を与え
 ること等をおし、価値を提供してゆく。

強い企業となるため、変化してゆく市場に自らを置き、
 多様なサービスを提供し、最新の戦略を立て、それに
 基づきクライアントのニーズに応じてゆく。また、高い品
 質とサービスを提供するため社員の能力を自由に活か
 す。変化する市場に我々も変わってゆく、とのことでした。

おわりに

現在は大規模な CE 企業も、始めは小規模であった。
 成長のヒントは何か? 講演者の発表から推測すれば、市
 場のニーズを先読みできる先見性と素早い実行力、社
 員の能力を十分に引き出す教育とマネジメント、高い理
 想(ビジョン)と倫理観、社会的評価を得られる広報活
 動、人的ネットワークの構築と連携、共有化された目的
 意識とそれを支えるコミュニケーション、いうことであ
 るうか。日本人には、更に英語力が加わってくる。どれを
 とっても難題である。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar 7 Advocacy: A Voice for the Industry セミナー 7 主張：業界の声

株式会社東京設計事務所 代表取締役副社長
 AJCE 副会長 国際活動委員会委員長 宮本正史

日 時：2008 年 9 月 10 日 11:00 ~ 12:30

場 所：Salle de Bal, Ch. Frontenac

議長及び講演者：

議 長 Gregs Thomopoulos, FIDIC 理事

講演者 Karine Leverger, SYNTEC-Ingenierie
 廣谷彰彦, AJCE
 Dave Raymond, ACEC, USA

Thomopoulos 議長から、このセッションは特別なものであり、コンサルティング・エンジニアは政治に関わることは少ないが、プロフェッショナルとして社会に関わり、影響を及ぼしている。今回はフランス、日本、アメリカからの講演者に講演をして頂き、その後会場ともに活発な意見交換を行いたいとの挨拶の後、それぞれの発表が行われた。

1 . Developing Consulting Engineers as Trusted Advisors

Karine 女史はフランス協会の事務局次長であり、彼女の多岐に亘る経験に基づいて、同国における CE の置かれている状況について説明した。

フランスでは CE は“ 信頼される助言者 ”としてやってきた。今後さらに“ 信頼される助言者 ”としての CE の能力への信頼性を高める必要がある。そのために、2つの例として、Sustainable Development と Innovation の重要性を説明した。また、政策決定者やオピニオンリーダーにどのように影響を与えるのかを説明した。さらに、全ての関係者との議論を行うことの重要性について述べた。総合的な行動計画を持つことが必要であり、それには；

- 社会的な問題のキャンペーン
- 大学や高校とのパートナーシップ
- 表彰制度
- 年次大会

などを含める。また、協会としての重要なこととして；

- 集合的な活動が効率的である
- 適切なテーマの選定
- 積極性
- 協調者(味方)を見つける能力
- 活動のための予算

などを挙げた。

2 . Consultant Selection in Japan

廣谷氏は(株)オリエンタルコンサルタンツの社長であり、40年の経験を有し、現在 AJCE 会長、FIDIC-ASPAC (FIDIC アジア太平洋地域協会連合)議長であるとの紹介の後、廣谷氏から日本におけるコンサルタント選定の現状について説明があった。

日本ではコンサルタント選定は1889年制定の会計法によりコスト基準、すなわち CBS(Cost Based Selection : 価格による選定)で行われている。しかし、低価格による低品質のサービスは公共の利益に反することが明らかになってきた。日本で影響力のあるロビー団体である建設コンサルタンツ協会(JCCA)は選定方法の改善に取り組んでおり、1989年にATI構想を公表し、QBS(Quality Based Selection 品質・技術による選定)を提唱した。1999年に中村委員会が、コンサルタントの役割と調達方法の改善を検討するために設けられ、中央政府では品質を重視するようになってきた。国土交通省ではプロジェクトの形態によりさまざまな調達方法が採られるようになった。2001 ~ 07年の傾向をみるとQBSや随意契約が増え、CBSが減少してきている。2005年には公共工事に関する品質確保の法律が制定された。状況は改善されているが、まだ課題も多い。例えば地方公共団体にQBSの採用を働きかけていかなければならない。

3 . Influencing Government

Raymond氏はコンサルタントで20年の経験を有し、ここ10年間はACECの会長を務めている。それ以前は連邦政府及び学会で勤務した。

主張(Advocacy)の技術とは、“ 自分たちがやりたいことを公務員に言わさしめる ”ことである。そのためには；

- 明確な目標(goals)を定める
- 対象(target)を特定する
- 行動計画を作成する
- 剣闘士(gladiators)を探し、戦いに備える
- 道具(tools)を持つ
- 公務員と協議するルールを準備する
- 勝つために勝負(play)する

ことが重要である。

主張(Advocacy)が成功すると以下のような目標が

達成される。

- インフラへの投資の増加
- 税制面での優遇措置
- 調達方針の促進
- 公衆のイメージの向上

主張(Advocacy)はそれぞれの協会の最重要課題である。この点でFIDICは主導的でないといけない。



講演者：Thomopoulos 議長
右から2番目：廣谷会長

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

**Seminar 8 Planning Success through Succession Planning
セミナー 8 企業が成功するための後継者育成計画**

日本工営株式会社 コンサルタント海外事業本部 副技師長
迫田 至誠

日 時：9月10日(火) 11：00～12：30

場 所：Place d Armes, Château Frontenac

議 長：Alex Eyquem(英国)

発表者：Gayle Roberts(USA)、Liu Luobang(中国)、
Lee Wanjae(韓国)

内 容：コンサルティング エンジニアリング企業の成功の要素、後継者育成計画、指導者のあり方について3名から発表があった。その後発表者とセミナー出席者との質疑応答が行われた。

1. Gayle A. Roberts の発表(米国スタンレーコンサルタント会社の社長)

長期的に成功する企業は才能(talent)、協力(collaboration)、革新(innovation)の3要素を活用する。才能を蓄積するために新要員の雇用、次期指導者層の育成、社員教育が必要である。社員が協力する環



境を整えるために、チームの結成、部門を超えた業務分担、知識や知見の管理と移転が必要である。革新的であるためには、新旧技術の混合、斬新な考えや高価値業務の考案、前向きな姿勢を実行することが重要である。後継者育成計画は重要であり、計画の策定と社員への適用、企業の全レベルでの計画の実行、計画と進捗の社員への報告と社員の理解の3段階から成り立っている。

2. Liu Luobang の発表(中国ハルクロー上海エンジニアリング コンサルタント会社の副部長)

Yang Professionals(YP)に学習の継続、チーム精神、コミュニケーション能力、生産的かつ革新的な態度、国際的なコンサルビジネス能力を企業は期待している。YPはすでに経験を蓄積しており、また言語、情報、多文化への対応を得意としており、有望な後継者候補となつつある。YPは企業に長期に働く必要な企業要素として、企業の報酬、組織、文化、ブランド、雰囲気等を挙げている。

3. Dr Wanjae Lee の発表(韓国ドスンエンジニアリング会社の副社長)

韓国のコンサル企業の半分は創立者が企業の所有者である。創立者や元政府役人が会長、社長に居続ける場合がある。ほとんどの企業は後継者育成計画を考慮していない。公共事業、PPP(Public Private Partnership : 官民連携)事業、Demand Create 事業、海外事業へと分野が拡大している。企業の繁栄には、指導者の交代、所有権の従業員への移転、個人や従業員持株制度による株の保有、後継者育成計画の実行等が必要である。

4. コメントと質疑応答

20 分間行われた質疑応答やコメントの中で、Ms. Roberts は 5 年ごとに自分のキャリア計画を立て、業務

を通じての技術力の向上、夜間の学校でのマネジメントの学習などを行い努力したこと、社長はゴールではなく通過点であると話したことが特に印象に残った。

5. おわりに(所感)

Succession Planning(後継者育成計画)や Bench Strength Planning(将来会社の経営を担って立つ中堅幹部の人材を豊富にする計画)を日本の企業でも策定実行すべきであると感じた。発表した中国と韓国を含め各国の YP が将来の指導者となるべく積極的に学習していることに感動した。日本の若きエンジニア達を YP プログラムに多数参加させる企業内の環境整備が必要である。

特集 : FIDIC-2008 ケベック大会報告

Seminar9 Business strategies for a changing market セミナー 9 変化する市場に対するビジネス戦略

株式会社建設技術研究所 担当部長
国際活動委員会・政策委員会 河上英二

日 時 : 2008 年 9 月 10 日(水)11:00 ~ 12:30

場 所 : Chateau Frontenac Jacques Cartier

議 長 : Chris Newcomb

McElhanney Consulting Services(カナダ) 社長

1. 当該セミナーの目的

社会へのサービス提供を業とする Consulting Engineer (CE)産業は、経済の健全性によっている。利益は、クライアントや社会のニーズに合わせて経済力や技術力、人材力を成長させることができる企業にもたらされる。このセッションでは、CE 産業が成長し続けるために新しく、革新的な方法を見出したり、また変化する市場に適用することができる戦略の例についてレビューするものである。その事例として、以下の 3 つの報告がなされた。



2. A contribution of civil engineering consultancy firms to development aid

Jose Roman Pachon(スペイン):

TYPSA 役員 土木技術者

開発の目的は、雇用機会を創出するビジネスネットワ

ークの構築や継続的に発展していく方法を作り上げることにある。この点で土木のコンサルタント企業は適切にマネジメントできる最も適した組織である。透明性をもって、効果的かつ責任感を持って完璧に実施してくれる。ノウハウを伝達するには、国際的に活動している企業と一緒にその地に、地域、また個人のコンサルタント企業を設立することが迅速かつ効果的である。これはまた、発展途上の悪い循環を壊すためには、その地域の企業の能力形成をすることが最も効果的であり、促進をするべきである。

3. Driving engineering projects toward scientific development

Huang Shaohu : 中国石油会社の副社長

中国のCE企業はスタートは遅かったが、ここ10年で急速に発展し、いまや3,600もの企業と50万人の労働者を抱える産業となった。今では、年間に30万件以上ものビッグプロジェクトが発注されている。そして、市場の考え方も大きく変化してきた。中国政府では、戦略的

に“科学的発展のコンセプト”としてやエネルギー抑制、環境保護の方法などに取り組むこととした。このような変化をいい機会、チャンスとして捉えている。そのためには、コンサルタント同士で技術交流や連携、共同することや、高度な能力や知識を身につけることが必要である。

4. The international strategies of European construction companies

Michel Demarre : フランス Colas 社 CEO

EIC(ヨーロッパ国際建設企業)は、1970年に設立され、欧州15カ国を市場とする建設会社からなっている。より市場が大きく、より技術力を重視する、公平で倫理観のある市場をターゲットに取り組んできた。その結果、10年前の3倍以上となった。この拡大は、3つのEICの戦略によるものである。それは、技術競争力を発展維持すること、成長市場を対象としたM&Aの促進、建設関連サービスやその周辺を対象とした事業展開による技術の多様化である。しかし、この戦略方法には調達の仕組みが影響する。

特集 : FIDIC-2008 ケベック大会報告

2008-2009 Young Professionals Steering Committee Meeting 2008年-2009年 YPF ステアリングコミティ

株式会社建設技研インターナショナル
FIDIC-YPF ステアリングコミティ 中島隆志

1. プログラムの概要

日時 : 2008年9月7日 11時(現地時間)

場所 : Quebec City および Skype、Tleconference

議長 : Mr. Alex Eyquem

2. 主な内容

2008年 - 2009年のYPFステアリングコミティは16名で、うち私を含める5名が新たなメンバーの構成である。ケベック大会において2007年 - 2008年のChairであったMr. Stumpから2008年 - 2009年のChairをになうMr. Eyquemに引継ぎが行われるとともに、新期の第一回

目の会議として主に下記の点について議論がされた。なお、YPFの会議は毎月1回行われることとなっている。私は業務の関係上、カンボジアからSkypeでの出席となった。

Skype(IP 電話)による会議であったがカメラがなかったため残念ながらケベックの会場の様子や参加者の顔ぶれを拝むことはできなかったが、通信環境は極めて良好でありこのようなツールの恩恵を直に感じる機会であった。前ChairのStump氏は冒頭で「直接顔を合わせることによって今後の活動が変わる」との旨の発言をされていたが、彼のこの1年間の経験から来るものであろう

が、共感するところがあった。

議題としては主に、(1)メンバー紹介、(2)London2009、(3)Newsletter、(4)今期の活動、があり、活発な意見が交わされた。

(1)メンバー紹介、においては新たに加わったメンバーが紹介された。新たに加わったのは中国から2名、カナダから2名、日本から1名とのことであった。

(2) London2009、においてはLondon大会に向けたYPFフォーラム等のプログラムの内容、進め方、等について意見が交わされた。London大会ではACEがYPFを対象にしたテクニカルツアーを考案しており、これが実現できるかどうかがチャレンジであるという点において共通的な認識を持った。前ChairのStump氏によると11月頃には最初のDraftが必要だということであり、早速実質的な活動が始まる様子であった。また、若手を対象としたFIDICのトレーニングプログラムであるYPMTPについて、そのベネフィットを明らかにする必要性があることが、経験者等から発言があった。

(3) Newsletter、については、私自身の不勉強もあるがFIDICのNewsletterとは別にYPFのものがあり、それをどのように改良したらいいのかという点がこれまでのメンバーを中心に話し合われた。基本的に若手に対してFIDICというものを知ってもらうことを念頭においていることからアクセスのしやすさ、情報のストック等からWeb上で常に閲覧できる形がよいとの意見が出され、合意を得た

形となった。また、ネット上の議論の記録等もいつでも見られるように、別のサイトを構築する提案もなされた。

(4) 今期の活動については、まずは前ChairのStump氏に対し、彼の経験から得た教訓をまとめSCに提案することを依頼し、同土も快諾した。会議の時間が限られていたため、おそらく主たることは夕刻に用意されている場で意見交換がなされるであろうが、具体的な点が提案されることが期待される。この場で、Skypeを通じた会合が第一木曜日に設定されることを各委員が確認をした。なお、会合の時間については委員それぞれの時差等を勘案して適当なところをAlex氏が提案することとなった。次回は10月2日となる。

(5) ASPACのYPFの立ち上げが今大会で提案されることもあり、FIDICYPFとのかかわり等について大会の場で十分な意見交換がなされることが期待される。冒頭にStump氏が述べていたとおり、テクノロジーにより遠隔地からの会議の出席は可能であるが、Face to Faceのコミュニケーションに勝るものはおそらくない。私は今期から参加することになり、今回が最初の会議であったが、語学も含めコミュニケーションの重要性を痛感する場だった。SCのメンバーはおそらく20台～30台前半がほとんどであり、日本としても場を知るという観点からも若手をこのような場に関与することは有益なことであろうと感じた。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Young Professional Open Forum ヤングプロフェッショナルオープンフォーラム

株式会社日水コン 東京下水2部1課
国際活動委員会 赤坂和俊

日時：2008年9月8日(火)16:00-17:00

場所：Salle de Bal, Chateau Frontenac

参加者：約40名

議長：Richard Stump (USA)

1. 概要

まず、議長より、YPFの背景と歴史、その目的、運営委員会(Steering Committee : 日本から中島隆志氏(建設技研インターナショナル)が新たに参加)、今回のプレゼンテーションの概略等について、説明があった。

その後、以下の4カ国のYP(Young Professional)の活動報告 + ASPAC(Asia-Pacific group of FIDIC Member Associations) YPF設立の提案に関する報告があった。

中国

ノルウェー

日本(ASPAC委員会)

カナダ

オランダ

私の報告では、FIDIC YPFとASPAC YPFの関係等について説明し、この会議において、承認、賛同及び協力(サポート)を得ることを目的としており、事前に議長 Richard Stump 氏へ、山下事務局長からプレゼンの趣旨を説明していたこともあり、理解が得やすい状況であった。



2. おわりに

この場で、ASPAC YPF設立の報告ができたことが非常に重要であり、課題は色々あるにしても、まずは成功と言えよう。

FIDIC YPFですら、実際にヤングプロフェッショナルが活動できる状況までこぎつけるのに約4年間かかっている、という。

その意味では、一歩が大事である。

最後に、ノルウェーと私以外のプレゼンターは、予定時間の7分を大幅に超過(中国はあろうことか20分以上も)し、60分ではとても議論できる状況ではなかったのが残念であった。

ASPAC-YPF
(Young Professional Forum)

YP Activities for Asian-Pacific Region

Kazutoshi AKASAKA
Nihon Suido Consultants Co.,Ltd
ASPAC Secretariat (JAPAN)

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 1

What is ASPAC ?

- ✓ An Asia-Pacific regional body of FIDIC member associations
- ✓ Established in 1977
- ✓ Composed of 19 associations

Map showing member associations in Asia-Pacific region: Iran, India, Pakistan, Nepal, China, Korea, Japan, Bangladesh, Sri Lanka, Thailand, Vietnam, China Hong Kong, China Taipei, Philippines, Singapore, Malaysia, Indonesia, Australia, New Zealand.

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 2

Proposal of ASPAC-YPF

YPF Activities for Asian-Pacific Region

- ✓ European/American CE firms have the advantage for "Globalization" with their language of English
- ✓ Asia/Pacific countries have different culture from European countries and America.
- ✓ Enhanced Information Exchange and cooperation among Asia/Pacific countries are necessary.
- ✓ Promotion of YPs' Activities would play an important role in Asian/Pacific countries.

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

Establishment of ASPAC-YPF (proposal)

- 1) Operation Department**
Implement YPs' activities, planning, and feed back outcomes to ASPAC MAs as well as to FIDIC-YPF for mutual interests.
- 2) Research Department**
Collect information about challenging issues, update and feedback YPF activities, study features of CE industry in ASPAC countries, etc.
- 3) Education Department**
Organize and implement training seminars, produce education materials based on FIDIC tools, etc.

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

Implementation of ASPAC-YPF

Steering Committee

- 1) Publicity
- 2) Education,
- 3) Administration
- 4) FIDIC activity

Meeting

- ✓ 4 times/year, TV system or "Skype" system
- ✓ Topics
 - Update of CE or YPs' activities in member countries
 - Operational issue
 - Election of S/C member
 - Measures for improving natural and build-environment
 - Preparation for FIDIC annual conference
 - Liaison between ASPAC-YPF and FIDIC-YPF
 - Annual plan, report
 - Education programme for YPs

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

Organization of ASPAC-YPF

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

Sub-Regional Groups of ASPAC-YPF (Proposal)

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

Relationship with FIDIC-YPF (Proposal)

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

Steering Committee Member (Proposal)

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

Thank you for your Attention.

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

ASPAC (FIDIC Associations in the Asia-Pacific Region) FIDIC アジア太平洋地域協会連合

株式会社建設技研インターナショナル 営業企画室長
国際活動委員会 ASPAC 分科会長 **前田 剛和**

1. 会議概要(その1)

会議名： ASPAC Executive Committee Meeting(ECM)

：理事会

日時： 2008年9月7日 午後0時15分～45分

場所： Laval, Château Frontenac

参加者： 廣谷彰彦(ASPAC 議長)、K. K. Kapila(インド)、Dennis Sheehan(オーストラリア)

事務局： 前田剛和、渡津永子、赤坂和俊

オブザーバー： 宮本正史(AJCE 副会長)、山下佳彦(AJCE 事務局)

議 題：

議事録の確認(FIDIC2007 シンガポール大会における ASPAC ECM、TCDPAP/ASPAC ソウルセミナーにおける ASPAC 会議)

ASPAC 活動について(ASPAC キャパシティ・ディベロップメント・プログラム、ASPAC YPF (Young Professional Forum)、ASPAC アクションプランの進捗)

Salvador P. Castro 理事提案の Sub-regional Group および副議長の創設について

討議結果：

特になし。議事録は承認。

キャパシティ・ディベロップメント・プログラムの実施については基本的に了承された。プログラムを実施する対象国について、Kapila 氏よりインドでは既に同様のプログラムの実施を計画中であり、対象国が負担しなければならない会場の準備や講師派遣に関する費用も問題ないので、最初の対象国として立候補したい旨が表明された。

現在の ASPAC19ヶ国を4つに分割し Sub-regional Group とすることについては了承された。また各 Sub-regional Group に配置されている Executive Committee (EC)メンバーから副議長を選出し、

議長の補佐を行うことについても了承された。

2. 会議概要(その2)

会議名： ASPAC Asia-Pacific Regional Forum : 地域フォーラム

日時： 2008年9月8日 午後4時～5時

場所： Jacques Cartier, Château Frontenac

参加者： 廣谷彰彦(ASPAC 議長)、K. K. Kapila(インド)、Karamat Ullah Chaudry(パキスタン)、Dennis Sheehan(オーストラリア)以上パネラー。ほか ASPAC 各国より約30名が参加。

事務局： 前田剛和(モデレーター)、渡津永子、赤坂和俊

議 題：

ASPAC キャパシティ・ディベロップメント・プログラムの紹介(廣谷彰彦：ASPAC 議長)

パネル・ディスカッション(ASPAC におけるキャパシティ・ディベロップメントの現状とその重要性・必要性について)

討議結果：

特になし。

パネラーの Kapila、Chaudry、Sheehan の各氏から各国協会におけるキャパシティ・ディベロップメントの現状と課題等に関して発表があった。これらの国の中で特にインド、オーストラリアでは、すでにキャパシティ・ディベロップメント・プログラムを実施あるいは計画中であることが述べられた。また、キャパシティ・ディベロップメントを今後 ASPAC 加盟各国で実施していくことは重要であり、その必要性が確認された。ほかに議論があったのは以下の2点。

a. Sub-regional Group

b. キャパシティ・ディベロップメント・プロ

グラムの実施対象国

a.については、Mr. Adam Thornton(ニューゼーランド)FIDIC 理事より、現在のオーストラリア、ニューゼーランドの2ヶ国の Sub-regional Group にもう1ヶ国加えて欲しいという要望が出された。ただし、追加する具体的な国名については言及されなかった。

b.については、ベトナムよりすでに対象国として立候補があがっていることが報告され、ほかにインド、インドネシア、パキスタンが立候補し、計4ヶ国が対象国として挙げられた。

上記 a.および b.については翌日に予定されている ASPAC 総会にて再度議論することとなった。

3.会議概要(その3)

会議名: ASPAC Asia-Pacific Networking Lunch : ネットワーキングランチ

日時: 2008年9月9日 午後0時30分～2時

場所: Champlain Restaurant, Château Frontenac

参加者: ASPAC メンバー協会員 約50名

議題:

各国協会活動についての現状報告(Country Report の発表)

討議結果:

特になし。Country Report の提出は少なかったものの、口頭で各国から現状が報告され、なかなか一同に会することのできない ASPAC 各国間の貴重な情報交換の機会となった。

4.会議概要(その4)

会議名: ASPAC General Assembly Meeting (GAM): 総会

日時: 2008年9月9日 午後5時～6時30分

場所: Jacques Cartier, Château Frontenac

参加者: 廣谷彰彦(ASPAC 議長)、K. K. Kapila(インド)、Karamat Ullah Chaudry(パキスタン)、Dennis Sheehan(オーストラリア)以上パネラー。ほか ASPAC 各国より約30名が参加。

事務局: 前田剛和、渡津永子、赤坂和俊

議題:

議事録の確認(FIDIC2007 シンガポール大会にお

ける ASPAC GAM)

ASPAC 活動について

a. ASPAC キャパシティ・ディベロップメント・プログラム

b. ASPAC YPF (Young Professional Forum)

c. ASPAC アクションプランの進捗

JBIC 特別セミナー: 大本俊彦教授(京都大学経営管理大学院)による DAB(Dispute Adjudication Board : 紛争裁定委員会)の実務に関する講演: "Promotion of Adjudicators in Asian Region and its Action Plan "

討議結果:

特になし。議事録は承認。

a.について、理事会および前日のフォーラムでの議論を踏まえ、Sub-regional Group の考え方が説明されたが、種々の意見が出され提案の分割案について総意を得ることはできなかった。また、キャパシティ・ディベロップメント・プログラムの実施対象国については、対象国のニーズを踏まえ、会場や準備スタッフが十分であるか、実施協会の強力なサポートが得られるか等を勘案しながら、ASPAC 事務局が FIDIC 事務局とも相談しながら決定する、とした提案についても同意が得られなかった。

b.については YPF(Young Professionals Forum)活動をキャパシティ・ディベロップメント・プログラムと同様に Sub-regional Group として実施していくことが提案されたが、このキャパシティ・ディベロップメント・プログラムでの分割案自体について賛成を得られなかったこともあり、同意を得られなかった。

c.については、これまでの ASPAC 活動として、年2回の定期会議(ASPAC/TCDPAP 年次セミナーおよび FIDIC 大会時)が実施されていること、ニュースレターの発行とウェブサイトを利用した各国協会活動の紹介等が実施されていること、今後は上記キャパシティ・ディベロップメント・プログラムと YPF を推進していくこと等が発表された。

本講演は JBIC 発注によって京都大学と AJCE の JV により策定が進められている、アジア版アジュディケーター育成プランについて紹介されたものであ

る。DB(Dispute Board : 紛争裁定委員会)の設置に伴うアジュディケーター(裁定人)要員の不足が今後問題になることが予想され、アジア地域におけるアジュディケーターの育成はその重要性が増している。ここで紹介された育成プランの実施により、アジア地域におけるアジュディケーターを養成していくことが望まれる。

5. 日本に於ける課題、提案

ASPAC 総会(GAM)で結論のでなかったキャパシティ・ディベロップメント・プログラムと YPF に共通する Sub-Regional Group およびキャパシティ・ディベロップメント・プログラム実施対象国に関して、ASPAC 事務局にて再度整理を行い、今回の FIDIC 大会時に行った ASPAC 理事会、総会の議事録とともに各国協会に送付し、意見を求めることとする。事務局のこれらに対する基本的な考え方は以下のとおり。

Sub-Regional Group については、理事会の意向を聴取するが、おそらく意見を取りまとめることは難しいものと思われる。従い、オプションのひとつとして Sub-Regional Group としての活動を行っていくという提案に止め、具体的な分割案については本事務局では提案しない。

YPF の Sub-Regional Group については、各協会から担当したい役割を募り、そのまとまりで活動を行っていくこととし、特に地域的な分割は考慮しない。

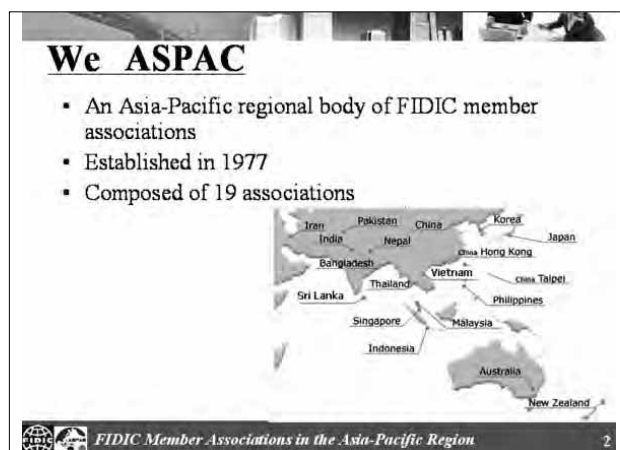
キャパシティ・ディベロップメント・プログラム実施対象国については、その選定条件として、協会のみでは実施することが難しく、ASPAC 事務局および FIDIC 事務局のサポートが必要とされる国を考えることとする(従い、インド、オーストラリア等は除外される)。

* ASPAC-YPF のプレゼンテーション内容は本誌『Young Professional Open Forum』に掲載しております。




ASPAC and It's Activity

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 1

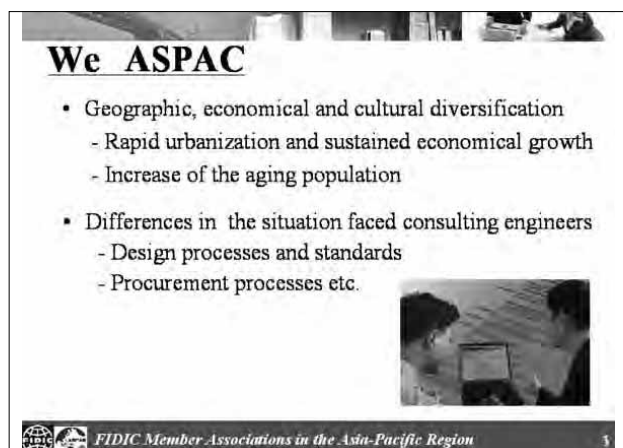


We ASPAC

- An Asia-Pacific regional body of FIDIC member associations
- Established in 1977
- Composed of 19 associations




FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 2

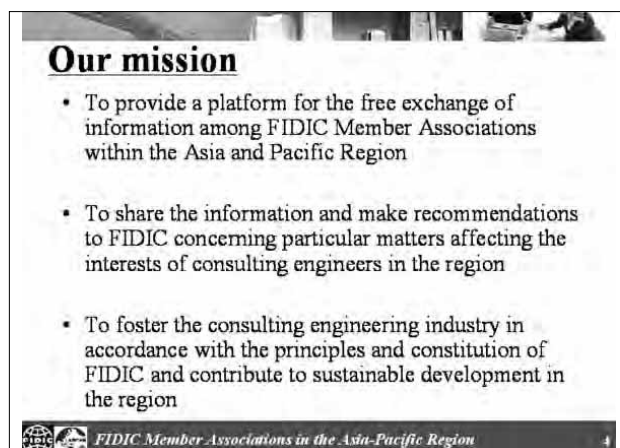


We ASPAC

- Geographic, economical and cultural diversification
 - Rapid urbanization and sustained economical growth
 - Increase of the aging population
- Differences in the situation faced consulting engineers
 - Design processes and standards
 - Procurement processes etc.



FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 3



Our mission

- To provide a platform for the free exchange of information among FIDIC Member Associations within the Asia and Pacific Region
- To share the information and make recommendations to FIDIC concerning particular matters affecting the interests of consulting engineers in the region
- To foster the consulting engineering industry in accordance with the principles and constitution of FIDIC and contribute to sustainable development in the region

FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region 4

ASPAC Action Plan 2007-2009

- This plan aims at promoting better relations among ASPAC MAs in order to commoditize information and expand business chances in the Asia-Pacific region.
- These actions result in enhancing interaction within the MAs more and more, and in expanding their business opportunities.
- These results are also expected to bring in an increase of the number of consultant associations which wish to join FIDIC and ASPAC.



FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

5

Progress of ASPAC Action Plan

- ASPAC Region News are issued periodically.
- The annual action plans of the MAs after the compilation and tabulation are reported.
- Directory of MAs are displayed on FIDIC web site gradually.



FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

6

ASPAC Activity 2007-2008

▪ Conference and Meeting

- TCDPAP/FIDIC/ASPAC annual Conference at Seoul, 22-25 April 2008
- ASPAC Extra Seoul Meeting, 23 April 2008



Seoul, 22-25 April



FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

7

ASPAC Activity 2007-2008

▪ Information and Communication

- ASPAC Region News were issued periodically .
(No.6 Dec 2007/No.7 May 2008)
- Exchange the information of each MA by Country report and Newsletter



FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

8

ASPAC Activity 2007-2008

▪ Seminar

- Two-Day Course on "The Practical Management of Contract Claims and Resolutions of Disputes", 25-26 October 2007 (CECOPHILE)
- "Seminar for Dispute Adjudication Board in Asia" July-August 2008, in Japan, Philippine and India etc.



FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

9

ASPAC Activity 2007-2008

▪ Exchange and share the information

- 17 Member Associations open their website, and information regarding history of each organization, annual event such as conferences, technical seminar for CE are displayed.
- 14 Member Associations open the directory of their member firms. People can find Consulting Engineer firms by name, location, field of expertise, etc.
- ⇒ Information regarding annual plans, and the directory of each MA shall be displayed on ASPAC page of FIDIC web site.



FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

10



KENCA

ACEA



FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

11

Future Activity 2008

▪ Capacity Development Program

- Capacity of consulting engineers and government officials should be developed in the zones of most dynamic economic development at ASPAC to catch up with developed countries in any kind of way. We will discuss what kind of training program is necessary for MA and will select some target countries.



FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

12

Future Activity 2008

- **ASPAC YPF (Young Professionals Forum)**
- It is a kind of Capacity Development Program for young consulting engineers. It is proposed to set up the place for YP to communicate and enlighten each other in order to innovate in the industry for our future.



FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region

13

Capacity Development Program for Most Dynamic Developing Countries in ASPAC Region

September 2008

Mr. Akihiko Hirotsu
ASPAC Chair
President
Association of Japanese Consulting Engineers
(AJCE)

Necessity of the Program

- Some actions are needed in the zones of most dynamic economic development at ASPAC, namely, Vietnam, Azerbaijan, etc. to catch up with developed countries in any kind of way.



- ◆ **Capacity of consulting engineers and government officials should be developed at first.**



Goals of the Program (1)

1. Understanding of roles and responsibilities of consulting engineers and government officials;



Goals of the Program (2)

2. Establishment of linkage between local governments at ASPAC countries and FIDIC member associations; and



Goals of the Program (3)

3. Establishment of sub-regional groups at ASPAC for implementation of continuous capacity development programs.



Proposed Sub-Regional Groups of ASPAC



Target Country of the Program

- A target country will be selected from ASPAC region to carry out the Program as a pilot.

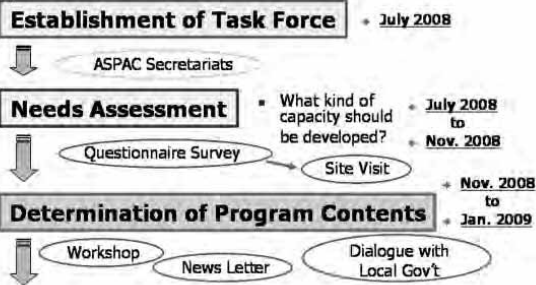
for example,



Vietnam, Indonesia, Malaysia, Pakistan, etc.

Based on the target country, the Program should be conducted as the following methodology.

Methodology



Program Implementation

Feb. – Jun. 2009

- **Kick-off Workshop**
 - ♦ Feb. 2009
 - ♦ Introduction of the program
 - ♦ Expected outcome
 - ♦ Contents
 - ♦ Schedule
- **Tours by Trainers**
 - ♦ Mar. 2009 to Jun. 2009
 - ♦ Workshop for consulting engineers
 - ♦ Workshop for government officials
 - ♦ Group discussions
 - ♦ Site visits

Program Implementation

Jul. – Sep. 2009

- **Analysis/Study**
 - ♦ Jul. 2009 to Aug. 2009
 - ♦ Compilation of workshop results
 - ♦ Analysis of the results
 - ♦ Lessons learned
 - ♦ Formulation of future activities
- **Wrap-up Workshop**
 - ♦ Sep. 2009
 - ♦ Program summary
 - ♦ Program outcomes
 - ♦ Conclusions
 - ♦ Future expansion

Undertakings of Related Parties (1)

FIDIC

- Dispatch of Trainers to the target country, ie, expenses regarding Tours by Trainers
- Assistance to holding workshops and implementing analysis/study

Undertakings of Related Parties (2)

Target Country

- Holding workshops
- Implementing analysis/study

Undertakings of Related Parties (3)

ASPAC Secretariat

- Preparing the implementation of the Program as a member of Task Force
- Implementing Needs Assessment
- Formulating the Program

Future Expansion

- Implementing TOTs (Training of Trainers) in these developing countries
- Producing new training kits based on the lessons learned from the program
- Holding workshops for continuous capacity development by each sub-regional group
-

Thank you for your attention.

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

President meeting 会長会議

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長
AJCE 会長・ASPAC 議長 廣谷 彰彦

1.はじめに

プレジデント会議は、大会前9月7日(日)の午前に行われ、各協会から60名を超える代表者が出席した。

今大会では、ASPAC(Asia-Pacific group of FIDIC Member Associations)と同じFIDICの地域組織であるGAMA(FIDIC's Group of African Member Associations)のMushi会長が欠席されるなど、査証のトラブルにより、大会直前に参加をキャンセルする代表者が少なくなかった。

2.FIDIC 2007-08 活動総括

はじめに、FIDIC会長John Boyd氏より、FIDICにおけるこの1年の活動総括がなされた。

FIDICは、コンサルティング・エンジニア(CE)産業を代表する国際機関“Global Voice of Industry”として、世界各国各地域の業界を代表するコンサルタント協会を会員とし、活動している。

現在FIDICには、世界各国の78協会が加盟している。FIDIC理事会は、2013年(FIDIC創立100年記念)に向けて、加盟協会100組織を目指し新たな会員カテゴリーの設定等を検討している。

これまでにFIDICは、重要なクライアントであると同時に各国政府に多大な影響を与える、国際融資機関とのより良い関係づくりに力を注いできた。FIDICは、こうした国際融資機関との協議やセミナー共催(2008年6月)を通じて、調達においてコンサルタントの“Quality”を重視することにより持続可能性に繋がることなどを提案し、理解を得ている。

またFIDICは、会員協会の活動支援にも力を入れている。今年4月には、韓国・ソウルにおいてASPAC地域会議が、同じく6月には、チュニジア・チュニスにおいてGAMA地域会議が開催された。また各国協会において、FIDICが提供する教育ツールを利用したセミナーが開催されている。



そしてFIDICは、契約約款や各種ガイドライン、調達や行動規範、持続可能性に関するベストプラクティスを、会員やクライアント、その他関心を持つ様々な機関に提供し、確かな効果を得ている。

FIDICはこうした活動を通じて、業界を取り巻く環境や、企業や技術者が抱える課題、意欲的な取組など様々な情報を、加盟協会・企業、国際融資機関、各国政府などと共有し、CE業界の強化に必要な各種支援策の立案や、新たなビジネスチャンスの創出等に役立てている。

3.地域の活動報告

地域の活動報告として、FIDIC地域組織であるASPACとGAMA、FIDICと連携するコンサルタント協会地域組織として、ヨーロッパのEFCA(European Federation of Engineering Consultancy Associations)、アメリカのFEPAC(Federacion Panamerica de Consultores)が、それぞれの活動状況を報告した。

ASPACからは、ASPACアクションプラン2007-2009の進捗状況と、今後の活動予定として、ASPAC地域におけるCB(Capacity Building:能力開発)プログラムの枠組みや、若手技術者のためのASPAC-YPF(Young Professionals Forum)の設立などを報告した。

GAMAからは、会長の出席はかなわなかったものの、急遽アフリカ地域からの出席者より、地域の状況・課題や、6月に行われたGAMA会議の様子などが報告された。

EFCAの活動報告からは、その資金規模や発注者との密接な関係などに、組織としての大きさ・確かさが感じられた。ヨーロッパ地域における建設投資はGDPの10%であり、そのうちコンサルタントが占める割合は20%、つまりGDPの2%を占めることとなる。また近年では、公共だけでなく私企業がクライアントになるケースが増えており、市場の成熟ぶりがうかがえた。

FEPACの活動報告は、その組織の成り立ちから、主に中南米地域(ブラジル)の活動状況報告であった。市場としては、近年成長傾向にあるものの、受発注者間の関係、特に契約方法などは、まだまだ適正なものではない。ブラジルにおいては、企業の統合・大企業の寡占化が進んでいること、コンサルタントの選定方法としてQBS(Quality Based Selection : 品質・技術による選定)が主流ではあるが、近年QPBS/QCBS(Quality Price Based Selection/Quality and Cost Based Selection : 品質・技術と価格による選定)が拡大しつつあり、価格が重視される傾向にあることなどは我が国の状況と共通するものがあった。

4. 創立100周年に向けたビジョンとビジネス戦略

FIDICは2013年に創立100周年を迎える。この記念すべき年に向けて、地域会員・協力会員の増強や、国際融資機関との関係強化、新たなビジネスチャンスの創出に向けた新しいクライアントの開拓、他の業界との連携強化など、今後のFIDICの取組が提示された。

また先に活動報告のあったヨーロッパの活動組織EFCAとの連携・統合に向けた動きも報告され、これはますます加速しているように感じられた。FIDIC/EFCA2つの機関の関心事項を統合し、よりシナジー効果を産み出すよう、今後の活動範囲の設定や、FIDIC契約約款のEFCAにおける適用など、両者の経験の相互活用、新た

な組織の運営方法等について検討が進められているようである。

この検討結果については、来年の大会や協会ニュースなどでも逐次報告されることである。

5. 自由討議

自由討議においては、各国協会からそれぞれの課題や近年の関心事項について、意見が述べられた。

AJCE代表として、活動状況をまとめたレポートを配布するとともに、QBSの推進について意見を述べた。本会議に限らず、インドをはじめとする東アジア地域、アフリカ地域からの積極的な発言は、大会中大きな存在感を示していた。

様々な発言がある中、ある出席者(おそらくカナダ)から、『我々は「利益」により重点を置くべき』との意見があり、会場の共感を得ていた。高品質なサービスを提供するためにも「利益」は必須事項であり、CEの地位向上に向けたクライアントやその他利害関係者への働きかけの事例が紹介された。大会中においても、利益を出し、成長を続ける企業の取組が紹介されていたが、「Profitability」は今大会の一つのキーワードであったように思う。

6. 終わりに

会議の随所に、FIDICが、地域会員との連携を強化しつつ、活動範囲を拡げていこうとする意欲的な姿勢が伺えた。

AJCEの使命として、今後もFIDICの活動への積極的な参加・協力を通じて日本のコンサルタントの存在感を高め、FIDICの「大きな声」を、我々業界を取り巻く環境の改善に向けて上手く利用していくことが重要であると感じた。また変化の激しい市場の動向や、競争相手の動きや、信頼できるパートナーなど、有効な情報を国内会員企業と共有し、わが国のコンサルタント産業の発展に役立てていきたい。

Directors & Secretaries Meeting 事務局長会議

AJCE 事務局長 山下佳彦

はじめに

今年の事務局長会議は大会前の9月6日9:00-17:00に亘り、Le Chateau Frontenac Hotelで開催された。参加者は約40カ国から50名であった。参加者は事務局長に限られているはずだが、英国はなぜか4名が参加していました。

1. 議事進行

議事進行はNew Zealandの事務局長Kiran Shaw氏が担当された。参加者の自己紹介のあと、昨年の事務局長会議議事録の承認があり、引き続きKiran Shaw氏がNew Zealandのコンサルティング業界の現状と課題についてプレゼンを行い、今年の事務局長会議の基調となるテーマが提示されました。これらは

- 会員会社への魅力増強と外に向けたPR
- 会員へのサービス(大規模/小規模会員会社へのサービス)
- 品質の確保
- 人材の確保と育成
- 上限のない補償と保険
- 会員企業が協会に期待している事項(たとえば研修や人的・財政的資源の活用)
- ロビー活動の促進(政府や発注者への優良事業の紹介)
- 協会が担う発注者への役割(調達、契約、CE選定ガイドラインの提供/提案)
- 発注者、会員、メディアとの効果的なコミュニケーション など。

プレゼンは動画、音楽やユーモアを交えながらも、緊張感にあふれたものでした。Kiran氏のプレゼンの後、米国のDavid Raymond氏がACEC(アメリカコンサルティングエンジニア協会)の5分間のプロモーションビデオを紹介したが、ブッシュ大統領、続いてヒラリークリン

トン氏、その他著名な経済や社会分野のステークホルダー、一般人などがConsulting Engineer(CE)の業績を評価し、米国のCEがいかに政治家と社会に評価され信頼されているかが伺えました。ロビー活動とはこういうものか、と驚かされた次第です。英国やカナダ、オーストラリアでも同様なロビー活動を行っている、との報告がありました。

2. 将来の展望

後半では、「将来重要と思われる事案を優先順に上げよ」をテーマとして、3つのグループに分かれてラウンドテーブル形式で議論が行われ、各グループの代表者が総括報告を行いました。各グループ共に類似したキーワードが報告されたが、優先順位には相違がみられました。以下は、小職が総括報告を行った第三グループの優先事項です：

- 人的資源 - 能力開発
- ロビー活動(自国、FIDICは国際機関)
- グルーバリゼーション(国際連携による事業機会促進とリスク低減、優良事業の共有)
- 持続性(CEは事業完成後もライフサイクルでマネジメントの責務を負っている。このことが事業機会促進となる)
- 技術開発(CEの将来は新技術の開発が担保する。No1産業へのけん引役)

おわりに

日本のCE業界は同様の目的を有する4協会が別々に活動しているのに対し、他国は協会が1本化され、日本に比べ人的・財的な資源が豊富であることが、日本と世界の最大の違いです。このことで政治的な影響力も付加され、ロビー活動がやりやすい環境を形成していると思われます。加えて国際言語である英語が日常業務

や生活で使用されているため、アドバンテージになっており、国際市場での事業展開を可能としています。今年のFIDIC大会では、欧米の多くのCE企業が事業機会に恵まれ、人材不足で悩んでいることから伺えました。翻って、日本のCEが将来を展望するためには、個人や企業が国際競争に勝ち残れるための戦略を持ち、若手CEを育て投資し、恐れず挑戦し続けることが必要と考えます。FIDIC大会は世界のCEがどのような戦略を持ち、どのように成功したか、どのように事業機会を創ったか、国際連携の可能性はどうか等、意識のある参加者には大変有用な場となっています。また、人的ネットワー

クを創るうえでも絶好の機会を提供しています。一人でも多くの会員がFIDIC大会に参加され、貴重な体験を積まれることを願っています。

事務局長会議への出席は昨年のシンガポール大会に続き今年で二回目となるため、昨年のような新人としての緊張感が取れ柔らいだ雰囲気でした。事務局長会議は各国協会の運営を担当している事務局長が集う会議であるため、議題や会議の進め方は実質的で日本のコンサルタント業界のあるべき姿や課題を整理する上で大変有用なものでした。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

FIDIC Business Practice Committee (BPC) Meeting ビジネス・プラクティス委員会 会議

株式会社東京設計事務所 代表取締役副社長
AJCE 副会長 国際活動委員会委員長 宮本 正史

日時： 2008年9月7日 8:30 ~ 10:00

場所： St - Louis 1, Ch. Frontenac

参加者： Gregs Thomopoulos, Chair
Adam Thornton, New Chair
Rick Prentice
Peter Rauch
廣谷 彰彦
宮本 正史

Thomopoulos委員長から欠席委員(Fatima Colason, Samarjit Chatarjee)の通知があり、さらに彼が今大会でFIDIC副会長に選出され、今後はThornton氏が委員長に就任することが理事会で承認されたとの報告があった。Thomopoulos氏は5年間この委員会の委員長を務めた。さらに彼と廣谷氏は9時から予定されている会長会議に出席するためこの会議を中座することになる。Thornton氏の司会で以下の議論が行われた。

1. 議事録の確認

会議の前 Thomopoulos 議長から配布された電話会議(4月7日)の議事録を確認した。

2. Capacity Building Guide to Practice ? Update of Procurement Module

このガイドの5章は変更の必要はないと考えられるが、Thornton氏が再度更新の必要性を確認する。

3. Definition of Scope (DOS) - Civil Infrastructure Projects

変更の必要はないと考えられるが、Prentice氏がレビューし、改訂が必要か確認する。設計の安全性については仮設(temporary structure)か永久構造物(permanent structure)を区別する。

4. Best Practice for Engineering Consultant Selection

更新し、改訂もしくは書き直しが必要。QCBS(Quality and Cost Based Selection : 品質・技術と価格による選

定)を提唱しているEFCA(ヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合)のガイドを参照する必要がある。Prentice氏がリードする。

5 . Procurement Excellent Award

2013年の100周年大会には、顧客など関係者を招待するので、実現したいとの意見が出された。カナダでは既にこのような制度があり、実施されている。このような表彰制度については選定基準(長期的な持続性、短期的便益、すなわち金額)が難しい。この議題については、まだ、委員の間でも意見がまとまっていないので、Rauch氏が概念案(concept paper)をまとめ、委員に配信する。その間、各国の事情を彼に伝える。

6 . 今後の予定

- 2 . Capacity Building については11月中旬をめどに。
- 3 . DOS については2 ~ 3週間以内。Thornton氏がChatarjee氏の意見を聞く。
- 4 . Best Practice については電話会議を11月中に開催する。

Thomopoulos氏が次期FIDIC会長含みの副会長に就任されたことにより、委員長がThornton氏に引き継がれた。この委員会は加盟協会や会員の関心事項を広く徴収し、それらに対し目に見える形で応えていくことにある。したがって、広範囲な事柄を網羅する必要があり、また、FIDICの他の委員会とも関連することが多い。新委員長Thornton氏の手腕が期待される。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

FIDIC Sustainable Development Committee (SDC) Meeting 持続可能な開発に関する委員会 会議

株式会社日水コン 東京下水道事業部副事業部長
技術研修委員会FIDIC・Policy推進分科会幹事・政策委員会副委員長 春 公一郎

日 時：2008年9月7日(日)9:00 ~ 12:00
場 所：ホテル・シャトー・フロントナック Bellevue
議 長：Bill Wallace(米)

参加者：Iksan van der Putte(蘭)、Peter Boswell
(FIDIC)、Maxime Mazloun, Karine Leverger
(仏)、Arthur Taute(南ア)、山下 佳彦、春 公
一郎(日)

1 .はじめに

本大会に先立つ9月7日(日)9:00より委員会が開催された。

メンバーに、他のコミッティーやミーティングを兼ねる者がいたせいもあって、集まりが悪く、また人の出入りも激しかった。そのような状況を反映してか、なかなか当初予定の議事次第に沿った議論はなし難く、話があちこちに飛び極めて散漫な印象の会議に終始した。

ここでは、議論の内容をトピックスごとに整理し、概要を報告する。

2 . PSM(Project Sustainability Management : プロジェクト持続可能性管理)ガイドラインの改定【PSM II】について

PSM IIについては、Wallace委員長が精力的にプロセス(方法論)の枠組みを作成し、この一年間にメールベースでの意見交換を図ってきた。このプロセスは、ジョンサン・ポリッツの5キャピタル・モデルに触発された考え方を基にしている。しかしながら、SDCへの影響も大きいボイドFIDIC会長から複雑過ぎると難色を示され、より明確で分かりやすい方法論が求められていた。

当初は、この新たな方法論について深い議論がなされるかと思っていたが、他の議題に係る議論(雑談)に時間を取られ、殆ど取り扱われなかった。

文末に示す図のような枠組みの改案が示され、委員会後、ボイド会長と主要メンバーが相談した結果、この新たなプロセスの枠組みは承認された模様である。今後、委員長がこの枠組みに基づき、システム自体の見直し案を作成する模様である。まだまだ、議論に時間を要することになるだろう。

またPSMの売り込みを図る際、しばしば発注者から認証はどうかと尋ねられるとのことで、PSMの認証の必要性についても認識を確認した。

3 .PSMの契約約款や調達方式への組み込みについて

昨年来、PSMがエンジニアリングの世界でなかなか普及しないのは、エンジニアが食物連鎖ヒエラルキーの底部に存在するためであり、これを打破するためには、契約や調達方式、基準等に組み込むことが不可欠だ、という認識がある。

議論の中で、持続可能性に関して、SDCやFIDICの存在感の軽さに対する懸念が表明された。持続可能性という新たなマーケットにエンジニア以外の人々が押し

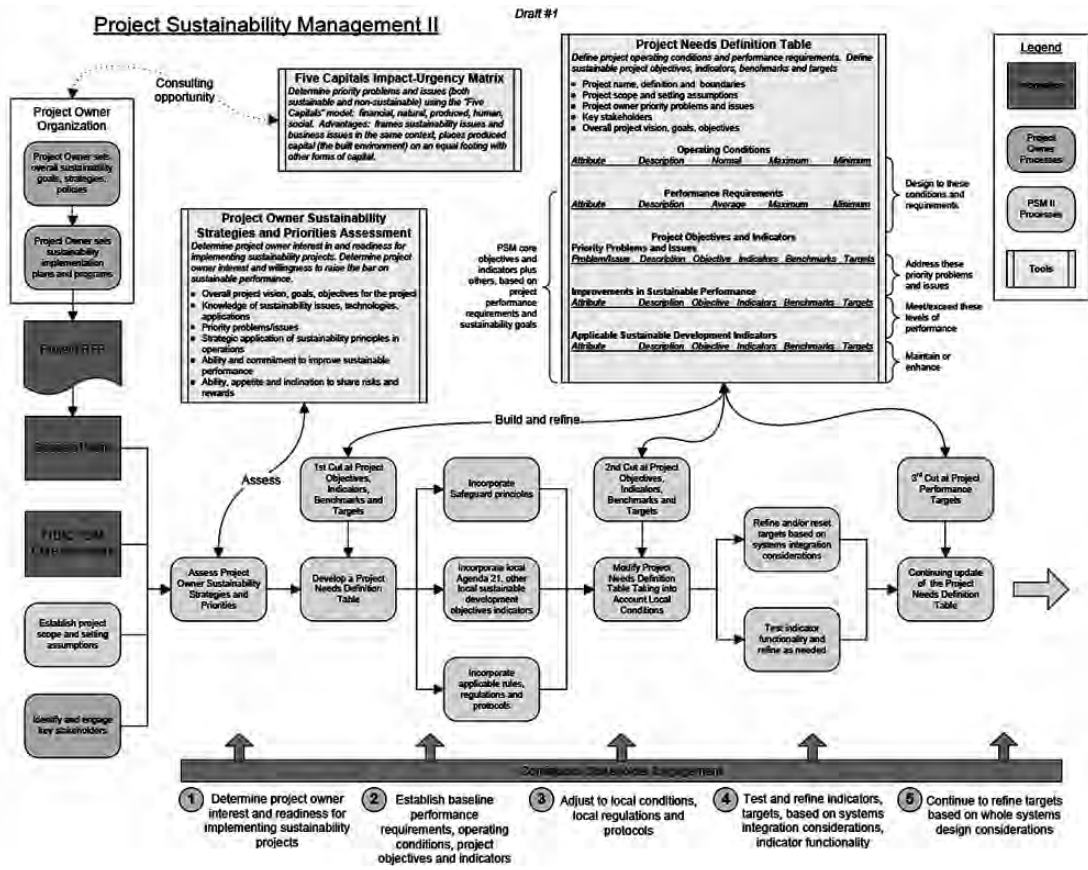
寄せている一方で、持続可能性に係る影響力を有する国際機関等にあまり関与できていない。それが結果的にPSMの導入促進にも大きく影響することになる。しっかり声を上げ、FIDICが主要団体の一番手に名乗りを上げていくことが必要との認識を確認した。

今後は、影響力を有する主要団体をリストアップし、SDCが出版や活動、重要会議等について情報を発信できるように適切な対応を取るよう、FIDIC事務局に対して要請することとした。

また、標準契約約款への組み込みについてはコントラクト・コミッティに議論してもらう必要がある。ガイドライン作成には予算が必要なので、その点でもFIDIC全体のサポートが不可欠である。それらを含め、事務局と交渉することとなった。

4 .PSMにおけるリスク・シェアリングについて

持続可能性の確保に向けて、イノベーションに寄せられる期待は大きい。特に、PSMではイノベーションのレベルを徐々に上げていくことを求めており、これが



PSM II の概念図 (案)

LEEDと異なる特色ともなっている。

しかしながら、新技術にはリスクが伴う。その取扱は重要な課題である。リスク・シェアリングは、標準契約約款にPSMを組み込む際にもハードルとなる。

現状では誰もシェアしたがるがないが、リスクや責任を負わなければ、役割も地位もない。また、自発的な取り組みと、規制への対応とでは、取り扱いを差別化すべきとの考え方もある。

このように、FIDICとしてリスク・シェアリングの考え方を固め、ガイダンスを提示する必要があるとの認識で一致した。ガイダンスは、委員長が後日ドラフトを作成することとなった。

5. おわりに

余談になるが、委員である van der Putte 氏は大会最終日の Gala Banquette で FIDIC 会長より Prangey 賞を授与された。これは、オランダ国内のほか、FIDIC 代表

として UNEP の「持続可能な建築物及び建設イニシアティブ(SBCI)」の理事会メンバーとして関与するなど、氏のサステナビリティに係る広範な取り組みが評価されたものである。PSMも含め、サステナビリティに係る道のりは先が見えない状況だが、エンジニアの活発な強い信念と危機感に基づく個人の取り組みに支えられていると実感した。

AJCE はこれまで、長良川河口堰を対象にした仮想ケーススタディに基づき PSM の実用性について検討を行い、2005年北京大会並びに2008年ASPAC大会で発表している。しかしながら、もはやケーススタディという段階ではないような気がしている。PSM II が完成するにはまだ時間がかかるだろうから、PSM I をベースにカスタマイズして実務に適用してみてもどうか。実際の業務の中で、付加価値として PSM 的なアプローチを提案し、実務として試行する時期に来ているのではないかと。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

FIDIC Risk and Liability Committee(RLC) Meeting リスク・マネジメント委員会 会議

株式会社日水コン 河川事業部副事業部長
国際活動委員会副委員長 藏重俊夫

日時：H20年9月7日 10:30 - 12:00

場所：Fairmont Frontenac Le Chateau Hotel, ケベック市, カナダ

議長：Kevin Corbet, UK

FIDIC 理事出席者：Adam Thornton, NZ

参加委員：Quentin Koen(南ア)、Steve Bamforth(UK)、Keith Lonsdale(UK)、Steve Jenkins(NZ)、Toshio Kurashige(日)、Nicola Grayson(豪)

1. シンガポール会議での議事録について

昨年行われたシンガポール大会時のリスク・マネジメント委員会では、1997年のリスク・マネジメント・マニ

アルが比較的若年層向けの啓蒙的なマニュアルであることから、実務色を色濃くしたプロジェクト管理者向けのリスク・マネジメント・ガイドを新たに発刊するという決定を行った。その後、メール会議を重ねつつドラフト化を進めてきたが、分野が広く、相当な分量になってしまうこと、及び、法制度の相違や各国事情によって、具体的にすればするほど執筆者の国以外への適用性が希薄になってしまうことから、方針を転換したことを確認した。

2. 今後の委員会活動方針について

リスク・マネジメント委員会の今後の活動について、2004年に実施したリスク事情の各国 MA サーベイ、1992年の責務制限に関するポリシー・ステートメントとその後

の委員会や大会WS等での議論、そして、前述のガイド執筆についてレビューを行い、以下のような方針を決定した。

リスク事情の各国サーベイ

貴重な情報が得られたが、数カ国の回答しか得られなかった。主要なMAを対象としたサーベイを実施する方針とし、リスク管理と品質の確保の関係で成果を得ることとした。

ポリシー・ステートメントの改定

専門職損害賠償保険とリスクの制限に係わるポリシー・ステートメントについては最近のプロジェクト事情を考慮して補強する必要がある他、クレーム事情も当時と異なってきたため、新たに書き下ろすこととなった

リスク・マネジメント・ガイドの改定

ガイド策定は、一般論ではなく、最近特に問題となっている懸案事項を5つのテーマにわけてそ

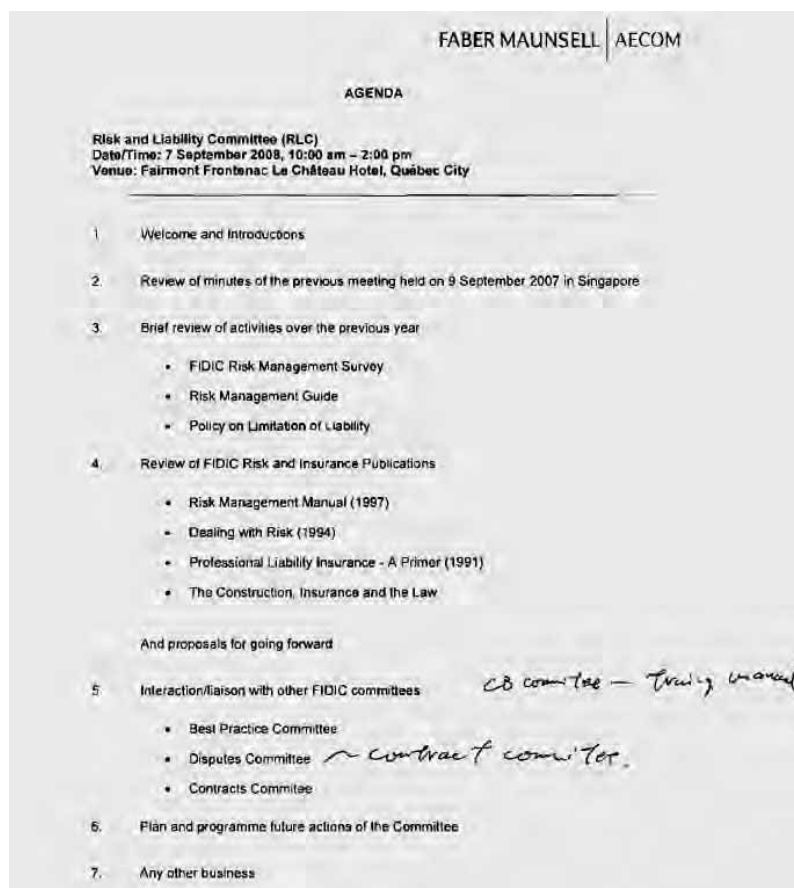
れぞれ1ページから2ページ程度のショート・ガイドとして作成する方針とした。

既存の能力開発テキスト「Guide to Practice」のリスク管理に関するパートについては、ショート・ガイドの策定と併せて部分改定することとした
 保険に関するマニュアル「Insurance Primer」は策定から相当の年月を経ており、タイトルの見直しも含め、その改定を行うこととなった。

3. 連携の必要がある委員会について

今後の協働が必要な委員会は、CE選定等を所管するベスト・プラクティス委員会(BPC)、契約委員会(CC)、能力開発委員会(CBC)した。特に、CBCに関しては、我国7月に実施したリスク・セミナーでも、“見識を備えたサービス購入者(Informed Purchaser)”の問題にクライアントサイドの関心があった点を紹介し、連携の重要性を指摘した。

【添付資料：会議アジェンダ】



A Report on Young Professional Management Training Program 2008 YPMTP 2008 参加報告

株式会社長大 構造事業本部
中村公紀

1. プログラム概要

本稿は、2008年3月から9月にかけて実施されたFIDIC YPMTP 08(Young Professional Management Training Program)への参加報告である。

プログラムは世界の若手コンサルタント技術者を対象に、ケーススタディを通じてコンサルティングサービスのマネジメントに関わる素養を養う、コンサルティングに関わる国際的普遍的な問題意識を共有する、若手の問題意識の発信と次世代への提言、および、若手同士の国際的交流を目的としたものである。

参加者はアジア、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニア、アフリカなど多様な国々から30名程度が集まった。地域や時差を考慮して3つのグループに分けられており、私はアジア、オセアニアを中心としたグループにてセッションに参加した。Web 掲示板上での議論の進行・議事録編集、及び2週に1回のWeb 会議でのプレゼンターは参加者同士の持ち回りである。

カリキュラムは、3月から8月に実施された4つのケーススタディに関するグループ討論によるWeb セッションと、それらを踏まえて9月にケベック本大会に全参加者が集まって行われた総括セッションに分けられる。総括セッションはケベック大会に組み込まれており、本プログラムの成果はFuture Leaders Workshop において発表された。

2. ケーススタディ(Web セッション)

Web セッションでは、以下の4つのテーマに関して例題的な状況説明が与えられ、これに即して与えられたいくつかの質問への参加者それぞれの回答から発展させてファシリテータとともに議論・考察を進めた。

Organization & Human Resources Development

(組織構造と人的資源活用)

Ownership Structures

(組織の所有構造)

Marketing of Consulting Services

(マーケティング活動)

Muticultural Management

(多文化状況下でのマネジメント)

以下に各テーマと筆者が所属したチームの討論結果の概要をまとめた。

Case 1 : 組織構造と人的資源活用

特定の地域・特化したサービスで活動するコンサルタントとグローバル展開する総合コンサルタントの買収合併問題を題材として、組織やビジネスモデルの多様性、企業文化が異なる場合の合併・業務提携の諸課題と可能性、そこでの人的資源の活用方法について議論を行った。これらは、続くケーススタディへの予備的なテーマとなっている。

Case 2 : 組織の所有構造

1つのコンサルタントが起業家同士の持ち株会社として起業され、年を追って人員や業務範囲を拡大して株式を上場するまでの状況が例に示され、株式の内部保有と株式上場後の所有構造の利点・欠点について議論が行われた。多くの国の参加者が、コンサルタントの株式上場のリスクを懸念しており、議論の基調は、工業系のような莫大な設備投資を必要としない頭脳集約型産業であるコンサルタントには、株式の内部保有の方が適しているのではないかというものであった。上場会社となることに対するリスクとしては以下のような指摘があった。

- *Share price fluctuations*, with external factors, such as a global downturn, affecting the profit and the share price of the firm;
- *Ownership issues* arising when control of the firm is not stable and changes hands through market mechanisms. This can lead to the firm becoming a target for takeover, which are usually focussed on

short term profit (hit and run) and not the long term benefit of the company;

- Constant *demand for dividends* to the shareholders, which may mean that the firm cannot and does not invest aggressively creating a significant opportunity cost; and
- *Legal and administrative costs* for transparency to the stock market resulting from the need for periodic comprehensive and costly financial reporting and provision of significant industrial relations staff numbers.

Case 3 : マーケティング活動

コンサルタントのマーケティング活動は、General public(一般大衆) Clients(直接の顧客) Potential new staff(将来の被雇用者)の3つを主たる対象として、以下の5項目に沿って行う。

- Product - What we are trying to market
- Price - How to price these services
- Promotion - How to market
- Place - Where to market
- People - Who to market and who to market to

Case 4 : 多文化状況下でのマネジメント

この例では、企業が外国政府から当地での新規大型プロジェクトの計画・設計・監理を受注したという状況を扱った。ここでの課題は、契約上の法的倫理的線引きがあいまいな顧客の要求への対応および関係構築、現地スタッフ・企業との協力体制の確立、通信技術の未発展地域での業務遂行など、多くの課題に対してどのように望むべきかを考えるものであった。こうしたプロジェクトでは、文化的差異の問題から、以下のような態勢で臨むのが重要であるとの認識を得た。

- *Familiarity* - Learn about the local culture, morals and attitudes to work. This may be undertaken by group sessions with guest speakers who have worked in the area and/or by providing sufficient relevant resources so that staff can undertake additional reading at their leisure
- *Language* - Develop open and friendly communications with local staff and encourage expat staff to make an

attempt at learning the local language. The company could pay for out of hours language training of the expats for those who wish to undertake it.

- *Communication* - Provide effective means of communication between head office and the local office. This is likely to be very important as the design work associated with the project is likely to be undertaken in an area or office well removed from the area where data collection is undertaken.
- *Boundaries* - Develop firm rules for the running of the project but allow flexibility where it may be required. Capacity for improvisation and initiative will often be crucial for the success of an international project, particularly in less developed countries.
- *Positive Attitude* - Challenges are inevitable with such projects and provided these can be addressed with a positive attitude, they can be overcome.

3 . 総括セッション / Future Leaders Workshop

総括セッションにおいては、まず、これまでのWebセッションの議論を3チーム合同で総括することで、我々が現在直面する課題への問題意識のすりあわせを行った。この基本認識を踏まえて、若手技術者が持つ問題意識と次世代への提言をまとめ、本大会のFuture Leaders Workshopにおいて発表を行った。

提言の要旨は以下の通りである。

- Evolution of Services
 - * *We have increased project complexity* - Here we need multi-disciplinary teams / alliances, innovation, greater attention to ' soft ' issues. We can guide society and clients through new rules so as to adopt innovative technology approaches.
 - * *We face diminished capacity at government agencies* - it needs us to be problem identifier as well as solution provider, with marketing of full package of services, relationship with clients, involvement in preparation of projects.



• Globalization

* *We find Industry Challenges* - Effective project management geographically, Bridging the technology divide, Regulation management, Business integrity, Employee retention.

* *We need Flexible Organization* - Optimised resources, Integrated service delivery, Business management consulting, Code of conduct, Universal standards.

• Office Dynamics

* *We need Multicultural Management* - “ Beige Cohesion ” between races, IT for geographically distributed offices.

* *We have 3 Generations, 3 Expectations* - Older, Those with young families, Younger. Flat management system, Meeting the younger generation 's demand.

* *We need Life-work Balance(not work-life)* - “ Lazy engineers ” vs. “ We work to enjoy life ”.

Reasonable working time and Long-term leave,
Working from home, Paternity and Maternity
leave ... BUT BUSINESS COMES FIRST!

• SUMMARY

- * Take network of the project life cycle.
- * Encourage staff to travel and break down cultural barriers.
- * Cater for the strengths of the Youths.
- * Change the workplace to enhance and use these strengths.

4 .おわりに

本プログラムは実に半年間に及ぶ研修であり、国際的にみても多忙な日本のコンサルタント技術者が業務と並行して参加するには、かなりハードではあった。しかし、各テーマは具体的な状況設定のもとで、参加者のバックグラウンドをもとに如何に行動するかを自問しながら進めるように工夫がなされており、自身の環境に投影して考えることが出来た。また、実は我々コンサルタント技術者が抱える悩み—業務負荷の多さ、社会的評価の低さ等々は世界中何処へ行っても大差ないのだという現実も知ることが出来た。

日本の環境では、ここでの議論の土俵にはまだ十分に至っていないというのが実感であるが、改めてこの職能について考える良い刺激を得られたという意味において、大変有意義な研修だったと言える。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

Social Program
懇親行事

株式会社日水コン
東京下水道事業部技術第2部技術第1課
国際活動委員会 赤坂和俊

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
社会環境事業部
国際活動委員会 渡津永子

ここで、紹介する 2008年 FIDIC Québec大会の

Social Program は次の4つである。

開催日	開催時間	催し	場所
9月7日(日)	19:15~21:30	オープングレセプション	ケベック国立美術館
9月8日(月)	9:00~10:00	オープングセレモニー	モンカルム宮殿
9月8日(月)	19:00~21:30	Local Color Night	船上(クルージング)
9月10日(水)	19:00~24:00	Gala Dinner	Québec City Convention Center

1. オープングレセプション

大会前夜の9月7日(日)に、ケベック国立美術館において歓迎会が催された。久々の再会を喜びあい、華やぐ人の環が、会場のあちこちにてできていた。

歓迎会はいつしか始まり、いつしか終わっていた。小楽団の演奏もあったが、会場スペースに対して人がぎっしりとして入り、人の声にかき消されてその演奏はほとんど聞こえなかった。

ワインはたっぷり頂いたが、食事は全くできなかったことが残念だった。



多くの人で賑わう歓迎会会場

2. オープングセレモニー

本大会は、FIDICと地元カナダの2つの協会、ACEC (Association of Canadian Engineering Companies)とAICQ(Association des ingénieurs - conseils du Québec)の共催により、開催された。

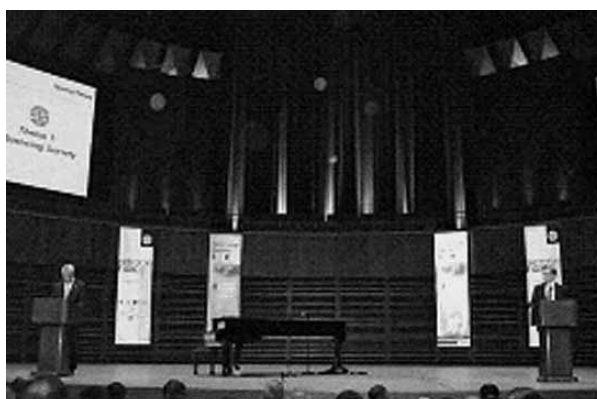
開会の挨拶は、地元協会の議長である、Leon Botham氏(ACEC)と Michel Lalonde 氏(ACIQ)に続き、ケベック市長からそれぞれ言葉を頂いた。後者2人のフランス語と英語が8:2というスピーチを聞きながら、フランス語が世界の公用語であることを改めて思い知った。

オープングセレモニーの会場は、1932年に浚渫された劇場(Music Hall)で、もとはスイミングプールであったという。言われてみれば玄関にはその面影が残っているが、ホールの内装や建物の外装からはちょっと想像できない。ケベック市長のあいさつの中で、「このホールには、技術者の素晴らしい働きとともに、市の予算を注ぎ込んだ。次の時代にもケベック市への技術者の多大なる貢献を期待する」というユーモアを交えた言葉があった。

続いてFIDICのJohn Boyd会長から、大会参加者に対する感謝の言葉とともに、我々コンサルタントは社会とクライアントの信頼を勝ち取るために努力しなければな



Palais Montcalm 外観 (HP より)



ACEC、AICQ 2つの協会の議長が並ぶ

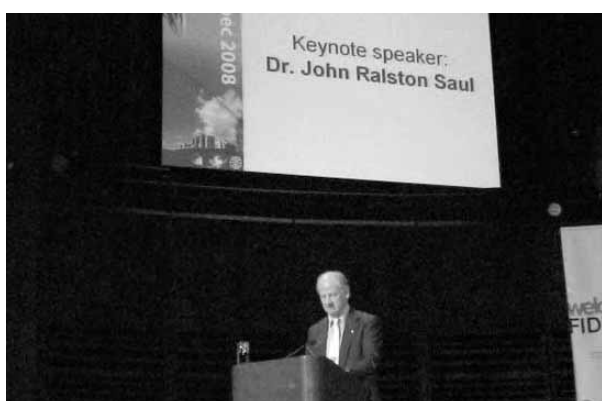
らないこと、「Quality」「Sustainability」「Integrity」といった重要キーワード、そしてこれからのFIDICの役割に関するスピーチがあった。



Welcome back! と参加者を迎える FIDIC John Boyd 会長 (カナダ出身)



Painchaud ファミリーの演奏に会場が沸く



世界的な哲学者 John Ralston Saul 氏の講演

開会の挨拶に引き続き、2組の音楽演奏があった。奏者にとって、コンサート演奏は夜が多いため、午前中の演奏は本調子ではないらしい。しかしながら、Alain Lefevre 氏のピアノ演奏も、Painchaud ファミリーの4重奏も、会場を大いに沸かせていた。特に後者は、ただのクラシック演奏ではなく、ノコギリなどの工具をつかった演奏や、4人が入れ替わり立ち代わり、楽器を変え、ポジションを変え、ある時は華麗にステップを踏むなど息のあったショーを展開し、会場を楽しませた。

セレモニーの最後には、哲学者であり世界的に著名な作家でもあるカナダの John Ralston Saul 氏より基調講演があった。彼は雑誌タイムズで「預言者」あるいは「反グローバリズムの開祖」と評されているらしい。

氏の言葉は、「前世紀、建設業は英雄であったが、現代では人々の敵として背を向けられている。社会の声に耳を澄ませ、自ら変化していかなければならない。」という我々産業に対する警告であった。

氏の講演の中で、以下のような言葉が印象に残った。

・グローバル化する社会は終わり、市民の関心は変

化している。

・それに対応するためのエンジニアの教育は、専門化されすぎている大学教育では遅く、より幅広い意見・アイデアを取り入れた教育プログラムが必要である。

・(持続的な社会は)今よりシンプルに、そして「Step Back」にも見える方向へ変化していく。

未来に向けてエンジニアは姿を変える=自ら変化していかなければならない、という氏の言葉を、会場は重く受け止めていたように思う。

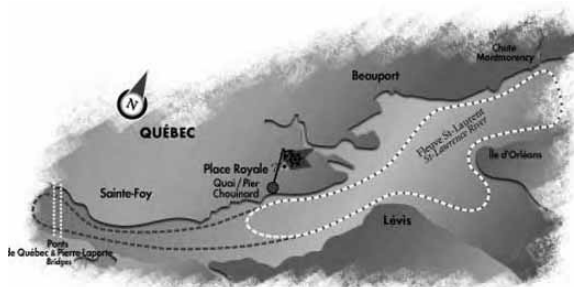
3 . Local Color Night(Cocktail Cruise)

大会初日の9月8日(月)の夜は、ディナークルーズであった。

出港は19時。 ヴィユ・ポール(旧港)~ オルレアン島~ モンモラシー滝(高さはナイアガラの滝よりも高いらしい)を往復する約2時間半のクルージングである。

天候は生憎の雨。しかし、出港前には小降りになり、夜景も何とか見ることができた。恐らく、晴れの日には空いっぱいの星空を眺めることができるのだろう。

大会が行われるフロントナックホテルは、船上から見





船上から見たフロントナックホテル

ると一段と美しく、まさに、城壁に守られた要塞である。

一方、船上では、軽快な音楽と共に、ケベック料理(?)と潤沢なドリンク(ワイン、ビール、等々)が用意されており、酒好きにはたまらない贅沢なクルーズである。

18:30には、山下局長をはじめとするAJCE第1陣(約6名)が到着。船上2階の一角(2テーブル)を確保し、後から来る面々を今か今かと待ちわびていた。

しかし、姿を確認できないまま出港。確か約20名が参加しているはずが.....

いざ搜索に出ると、船内はイメージよりかなり広く、屋上(?)~地階まで4フロアもあり、いろんな場所で、各人がすでに歓談されていた。

その後、ブラブラしていた際のワンショット(右上写真)

願わくば、天候が良ければ・・・と思うばかりであったが、それでも十分楽しいナイトクルージングであった。

4 .Gala Dinner(Québec City Convention Center)

大会最終日の9月10(水)の夜(18:30 ~)は、おなじみのGala Dinnerである。各国の民族衣装を着飾った紳士淑女が集う場であり、それだけでも見物である。

さて、今回の催しはどのようなものか、楽しみである。

オーソドックスなクラシック演奏の後、さすがケベックである。

シルク・ドゥ・ソレイユ¹の演舞があるという。これはすごい。

シルク・ドゥ・ソレイユ(男性)による演舞。銀のパイプで作られた立方体の上で倒立(右写真)。その後、その立方体を腕力で持ち上げ、回転させていく。孫悟空が



参加者の皆さんと記念撮影(船上にて)

如意棒を振り回す感じ(ん~、あまりうまくない表現である。イメージして下さい。)。もう一人女性の演技は、輪っかを使った演舞であり、これもすごかった(ラート²の輪っかが1本版です。)

時間にして10分か15分程度か、もっと長かったかもしれない。しかし、ほんの一瞬で終わってしまったように感じる。楽しい瞬間は、本当に一瞬である。

続いて、コメディアン(?)による会場の方々をダシにした舞台は最高であった。AJCE代表で河上さんが舞台へ。詳細は河上さんの了承を得ていないので、ここでは控えさせて頂く(右写真 : 楽しいそうである)

ますます、河上さんが好きになるエピソードである。パーティーはまだまだ続く。



Gala Dinner 風景



シルク・ドゥ・ソレイユの演舞



ケベック・シティーの夜景



コメディアンと河上さんの掛け合い

私は、少し疲れたため早々に退場し、酔い覚ましに会場からホテルまで歩くことにした。道すがら、見た幻想的な風景を最後に紹介する。月がきれいな夜であった。みなさまお疲れ様でした。

5.観光(おまけ)

最後に、個人的に非常に気になったので紹介したい。消火栓である。アニメなら、町にまざれ込んだ主人公に最初に声をかけそうなキャラである。



戦争嫌!



リラックス



チラッ



変装失敗?



チビとノッポ



Zzz~

参考

1:シルク・ドゥ・ソレイユ:

日本でも過去に、サルティンバンコ、キダム、アレグリアなどが、公演されている。カナダケベック州モントリオールに国際本部が置かれており、ショーのスタイルにはサーカスの伝統様式を取り入れているが、演者としての人間を強調する「ニューヴォー・シルク(新サーカス)」と呼ばれるもので、動物を使った曲芸は行わない。

2:ラート

このような輪っかを使って様々に回転させ、美しさを競う競技です。



特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

FIDIC2008 ケベック大会に参加して

田中宏技術士事務所代表
技術交流委員会 田中 宏

成田を飛ったジェット機はアラスカ、カナダ、アメリカの上空を飛び、11時間でデトロイト空港に着陸した。ここからケベックへ乗り継ぐことになる。

デトロイト空港で、みやげ店を散策していると、ヘンリー・フォードゆかりのグッズを飾った小さな店があった。ウインドーには彼の写真や分厚い社史や馬車と変わらない最初の自動車の小さな模型が飾られているので、吸い込まれるように中に入った。

社史によると、ヘンリー・フォード(1863 - 1947)は、1879年にデトロイトの機械工場の見習工となり、1903年に「フォードモーター社」を創立した。彼はここでフォード・システムといわれる部品の規格化、分業、コンベヤーによる移動組み立てによる自動車の大量生産方式を確立し、世界最大の自動車会社に成長させ、一方、フォード財団をつくり教育に貢献した。

FIDIC大会出席の途上で、デトロイトの地を踏み、ヘンリー・フォードの事績を振り返ることができたのは幸いであった。

FIDIC2008のケベック会議のテーマは < A Strong Industry Serving Society > である。

初日の9月7日の開会式では、ケベック市の Palais Montcalm の大ホールに一杯の出席者は、ケベック州出身の世界的なピアニスト兼作曲家の Alain Lefevre の素晴らしいピアノ演奏で感動し、4人兄弟のコミカルなバイオリン演奏に沸いた後、市長の歓迎挨拶、John Boyd FIDIC会長の開会挨拶、そして作家であり哲学者の John Botha 博士及び前ケベック州知事 Pierre-Marc Johnson 博士の格調高い記念講演を聴講した。

講演は、グローバル経済の進む中で、エンジニアリングコンサルタントの使命の重要性、強い連携、社会への貢献、品質の保持について述べられていたように思う。

大会での細かい内容は担当の方々の報告に譲ることとするが、1日目の午後のセミナー「グローバル・コミュニ

ティにおけるわれわれの役割」のなかで、現在、(社)日本技術士会は「プロフェッション宣言(聖職者、医師、弁護士などの専門職をプロフェッションと言う)をしているが、この「プロフェッション」が画面に大きく映し出されるのを見て、FIDICとの共通認識から、わが意を得たような気持ちであった。

ところで、ケベック市はユニセフの世界遺産の第1号で、今年が街ができてから丁度400年目を迎えている。1608年にフランス人シャンプランがケベックの町を建設し、その後にフランス人が入植したが、当時はインディアンとの闘い、イギリスとの戦争のために石造りの強固な城壁をめぐらし、セントローレンス川に向けて大砲(1586年には口径90cmものができていた)を並べて防備した。

この当時の1610年にガリレオは発明されたばかりの望遠鏡で、木星に4個の衛星があることを発見し、「地球は太陽の衛星である」とのコペルニクスの説を確認したことにより、牢獄に入れられ失明までしたが、アリストテレス以来の古典科学を近代科学に転換した。

この少し後に、イングランドの清教徒たちは国教の迫害から逃れ、メイフラワー号で大西洋の怒涛に揉まれながら、新天地アメリカへ渡って行き、後にアメリカ合衆国を独立させた。

一方、フランスのカトリック教徒たちは、フランスでの旧態依然の保守体制に我慢できなく、新天地を求めて、厳寒の大陸にあえて渡って行き、イギリスとの戦争に敗れてイギリスの植民地となった後、イギリス連邦のカナダ自治領になり、1931年に完全な独立国になった。しかしケベック州はフランス人の入植者が多く、母国語のみを公用語とし、フランス文化を守っている。17世紀からの町並みや建物、教会などが川、滝、丘などの自然との調和を保っており、ユネスコの世界遺産第1号である。

今回の会議で Ethic という言葉がときどき使われて

いたが、元をただせば、この怒涛の航海や自然環境の厳しい新大陸での「生きるか死ぬか」につながっているのではないかと感じた。

一方、19世紀以降、ケベックでの近代化は非常に積極的で、電力、建設、採鉱、製紙、機械、化学、繊維などの工業地帯となり、港湾、鉄道、道路、空港が整備されている。今回のFIDIC大会に、スポンサー、パブリック・パートナー、プライベート・パートナー、サポーターとして多くの企業が協力していた。

大会では、コーヒープレーク、ランチタイム、クルージング、夕食会、バス移動の中などで出来るだけ会員同士が接触できるように配慮されていた。私の専門の鉄道について何人かの方々と話をしたとき、モロッコの技術者は、鉄道の海底地下トンネルの工事中で、「やがてフ

ランスの高速鉄道TGVがわが国にも走るのです」といった話を聞くことができた。また、私の専門ではないが、ある専門家に水道水の循環システムについての発表に感銘を受けたと話をしたとき、時間のたつのも忘れるほど熱心に説明をし、近隣国との間の深刻な環境問題についても説明をして下さった。

最終プログラムはケベック市コンベンションセンターでのガラ・ディナーであった、紳士はタキシード淑女はイブニングに着替え、大広間での大ディナーであった。次回のロンドンで彼らに再会するのを楽しみに、参会者たちは舞台の前で遅くまでダンスを踊り、散会していった。

最後に、初めてのFIDICの会議ではAJCEの皆様に変にお世話になったことを感謝申し上げます。

特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告

FIDIC Design, Build and Operate Contract Seminar FIDIC 設計・施工・運営一括契約方式の契約条件書 セミナー

日本工営株式会社 コンサルタント海外事業本部副技師長
迫田 至誠

日時：9月11日(木) 09:00 ~ 17:00

場所：Bellevue, Château Frontenac

講師：Axel-V. Jaeger(独国)

FIDIC Contracts Committee 議長

Michael Mortimer-Hawkins(英国)

FIDIC DBO Task Group 議長

参加者：20人(日本から2名)

概要：FIDICは2008年9月にCondition of Contracts for Design, Build and Operate Contract(略称：DBO、通称：ゴールドブック、和名：設計・施工・運営一括契約方式の契約条件書)を出版した。この作成担当者が本書の作成経緯、特色、内容、他の条件書との相違点等を概要説明した。セミナーの最後に欧州建設協会(EIC)のコメントの紹介、質疑応答が行われた。

1. 紹介

2004年10月にDBOの条件書の作成を開始し、2007年9月のシンガポール大会にセミナー版を提出した。委員会やセミナーでの議論や検討をもとに、2008年9月に本条件書の第1版を出版した。本条件書の作成担当者



写真1 セミナーの講師と参加者



写真2 M-Hawkins氏(左)とJaeger氏(右)

であるJaeger氏とMortimer-Hawkins氏が本セミナーの講師である。

本書は設計、施工そして20年間の運転保守の事業を単独の請負者と一つの契約によって実施するための契約条件書である。1999年発行の設計施工のためのFIDIC Yellow Bookをベースに運転保守を追加した契約条件書である。

DBOの利点は、1)関係者の明確な役割分担2)施工遅延の最小化や円滑な施工3)少ない予算超過のリスク4)高品質のプラントが期待でき、ライフサイクル費用の最適化を図ることができることである。

2. DBO契約の関係者

発注者、請負者、発注者の代理人、紛争裁定委員会(Dispute Adjudication Board、略称:DAB)、監査人が主要関係者である。設計施工期間中は一人又は3人の裁定人からなるDABを常設する。裁定人は契約に記載の期日までに両者で任命する。運転期間中は一人の裁定人を置く。この裁定人は運転開始証明書の出状時に両者で任命する。監査員は独立した立場で運転管理計画に基づき、運転期間中両者の行動の監査を行う。監査人は運転サービスの開始前に両者で任命する。

3. DBO契約の用語

従来と違いアルファベット順に本書では用語を記載した。新しい用語としてAsset Replacement Fund、Commercial Risk、Cost Plus Profit、Cut-Off Date、Exceptional Event、Maintenance Retention Fund、Operating License、Operation Management Requirement、



写真3 セミナー受講者

Operation and Maintenance Plan、Retention Period等が追加されている。

解釈の条項に"shall=must"、"may=choice"等の解釈が追記された。

4. 契約期間

設計・施工・運転保守の全期間を契約期間とする。契約開始は入札受託書発行後の42日以内であり、設計・施工期間は運転開始証明書発行まで、運転期間は契約終了証明書の発行までである。

運転開始証明書は、設計・施工の完了、工事の試験合格、竣工図書と運転管理マニュアルの提出等の条件を満足した後に発行される。保留金は運転開始証明書発行時に半額、保留期間の1年後の設計・施工の最終支払証明書が発行された時点で残額が支払われる。

運転期間終了の2年前から保守作業、取替え、必要な工事を実行し、契約終了前に試験を行い、発注者の代理人が最終検査を行う。両者は工事の引き渡し条件を確認し、運転期間が終了した時点で契約終了証明書に署名し契約が終了する。運転期間の延長は認められていない。

5. 契約の開始と遅れ

契約の開始は入札受託書から42日以内であり、発注者は14日前までに着工命令を出す、また請負者は入札受託後28日以内に履行保証を提出する義務がある。

設計・施工期間に発生した遅れは、それが請負者の責任でない場合請負者は遅れに対する期間と費用を補償される、一方請負者の責任による場合遅延被害金を

支払わなくてはならない可能性がある。非常に遅れ打ち切り日(Cut-Off date)を超えた場合発注者は契約を終了することが可能である。

6. 支払い

設計・施工期間中に前途金、中間支払い、最終支払いが行われる。中間払いは支払予定表の金額、前途金の払い戻し、保留金、その他の合計である。

運転期間の支払いは資産取替え資金(Asset Replacement Fund)を含む中間支払いと最終支払いである。資産取替え資金は取替えが有効であったこと、支払予定表の期日に達していることを条件として資産取替え資金予定表に基づき支払いが行われる。契約終了時に残金がある場合それは両方で折半する。この資金は定期的な保守、耐用期間5年の機械や部品、主要機械の予定取替え日前に取替える機械、資産取替え予定表に記載のない項目への支払は行われない。

運転期間の最後まで適切な状態に工事を維持するために、中間払いの5%分を保守保留資金として中間払いから保留する。資金は保守保留保証に差し替えることができる。保守保留資金は最終支払いで支払われる。

7. リスクと保険

Red book(Construction)と Yellow Book(Plant & Design Build)の契約では発注者と請負者がリスクを分担、Silver Book(EPC)契約では請負者が全リスクを負担、DBO契約では設計施工中は発注者と発注者がリスクを分担、運転中は請負者がリスクを負担する。

DBO契約条件書ではリスクの分類と分担、例外的なリスク、保険の順序で条項が構成されている。請負者が負担すべき営利的リスクと発注者が負担すべき損害のリスクが明記されている。Force Majeureの語句に代わり、例外的なリスク(Exceptional Risks)が使用されている。契約情報(Contract Data)に記載された額又は記載がない場合同意された契約金額が請負者の責務の限度額である。

8. 対立の取り扱いと紛争の回避

紛争の第一歩となる不都合事項の初期段階での解決

が両者及び事業にとって最も有益なことである。発注者又は請負者からのクレームが紛争となった場合、DAB(紛争裁定委員会)への付託、裁定、受諾または不服申し立て通知、仲裁による裁定の手続きが規定されている。

3.5条に基づき発注者の代理人は合意に至るよう両者と協議する。不都合の場合公平に決定を行う。クレームと解決の手続きは20条に詳述されている。請負者は契約上クレームの原因となる事象・状況が発生した場合、発生の認知後28日以内に発注者の代理人に通知を行い、クレームの根拠となる記録を現場に保管し、42日以内にクレームの詳細を提出しなくてはならない。通知及びクレームを提出しなかった場合、請負者はクレームの権利を失う。発注者の代理人はクレーム受領後42日以内に詳細をつけて承認又は否定を通知し、その後3.5条に基づきクレームを解決するために両者と協議し最終的に発注者の代理人としての決定を行う。

発注者の代理人が工期の延長、追加経費の支払いに合意又は決定ができなかった場合、又は代理人の決定に不服の場合、発注者又は請負者のどちらでもこの決定から28日以内に不服を通知する。不服の通知後28日以内にDABへ付託することができる。付託しない場合不服の通知は無効となる。付託しなかった他方の当事者は21日以内に付託内容に対し応答しなくてはならない。他方の当事者からの応答後84日以内、又は応答の無い場合付託後105日以内にDABは裁定を通知しなくてはならない。この裁定に不服な当事者は28日以内に他方の当事者に不服を通知し、両者は和解による解決を図らなくてはならない。和解できない場合、通知後28日以降に仲裁を開始出来る。仲裁の裁定は最終である。

9. 契約情報、特記条件と書類様式例

今までの入札者が記入する入札付属書に代わり、入札書の一部として発注者が作成するPart Aに添付した契約情報(Contract Data)を新設した。この契約情報の中で入札者が記入すべき事項を発注者は明確に入札書にその旨を指示する必要がある。ここで必要な契約情報は40項目である。

Part Bに特記条件書の作成指針を添付した。特記

条件書の作成に当り、用語の統一、同一の条項番号、均衡したリスク分担、義務(duty)と責務(obligation)の区別等に留意する。また、資金提供者の入札ガイドライン等の特記条件書に入れる等も契約上役に立つことである。

入札書作成時に FIDIC の調達手続き(Tendering Procedure, 1994)を参考にすることを助言する。入札書の発注者の要求事項には、事業や工事の目的、機能や運転上の要求、制約や条件、引渡し条件、Part B の 7 ページに記載の他の 18 項目を含めることが必要である。

各種の入札や契約に必要な書類の様式を見本として作成し添付した。

10. 欧州建設協会(EIC ; European International Contractors)からのコメント

FIDIC が招待した EIC からの代表が DBO 契約条件書へのコメントのいくつかを発表した。発注者の代理人の責務が EPC 契約と DBO 契約で統一が取れていない、建設期間を含むと 20 年間以上となる長期の履行保証は提出できない、設計・施工期間の完成証明書の発行の条件は工事が十分に実施された(Fully executed)状態と記載されているがあいまいである等のコメントがあった。

EIC と FIDIC はより良い条件書の作成と改善に今まで協力してきた。DBO 契約条件書について正式なコメントを別途提出する。

11. 質疑と討議

セミナー中に質疑応答が行われた。主な質疑応答を以下に列記する。

監査人は監査のみ行うが決定は行わない。

監査人(Auditing Body)の経費は発注者が暫定金から支払う。

価格調整条項が記載されていない場合調整は行われない。

発注者が補償を行えば発注者の利益のために運転途中で契約を中断できる。

例えば 20MW の風力発電所で建設した後で風が不足して 5MW しか出ない場合がある。発注者が要求事項と風の条件を明確にすべきである。



写真4 欧州建設協会代表のコメント

空港の空調施設、水供給等の事業に DBO は適用可能である。計画設計段階から関係者が同席し一緒に協議し、品質の高い、運転し易い施設を妥当なコストで建設運営できる可能性がある。

コンサルタントの役割は Fair man として事業に大きく関わる発注者の代理人である。コンサルタント契約内での Liability(責務)条項については特に留意が必要である。FIDIC の White Book (Client/Consultant Model Services Agreement, 2006)を参照することを助言する。

請負者が発注者の代理人の交代候補者に異議を申し立てることは、明確な証拠を提出しない限り困難である。

20 年の運転期間や 5 % の Maintenance Retention Money 等の条項は発注者が変更可能である。

3 ~ 6 か月間等の適切な入札期間を採用する。

12. 終わりに

セミナーの講師の分かりやすい英語での DBO 契約書の説明や背景を聞き、DBO の考え方を理解できたこと、及び New Red Book や Silver Book の契約条項との相違点を知ることができたことは、有意義であった。

シンガポール公益事業庁から 3 名が参加し、水道供給事業を仮定した DBO 契約について質問を行うなど積極的にセミナーに参加していたことが印象深かった。

DBO 契約を実際に適用する事業の発掘やプロモートを行い、コンサルタントの業務を拡大するためには、各国のコンサルタントとの意見交換や情報交換を積極的に進めることが重要である。

AJCE/KENCA 覚書締結

AJCE 事務局

日 時：2008年7月22日(火) 14:00 ~ 14:45
場 所：虎ノ門パストラル みずきの間(東京都港区)
出席者：AJCE 10名 KENCA 10名 メディア 3社

2008年7月22日(火)、東京都港区の虎ノ門パストラルにて、(社)日本コンサルティング・エンジニア協会(AJCE) 廣谷彰彦会長と韓国コンサルティング・エンジニア協会(KENCA) CHO Haeng Rae会長は相互協力や提携促進に関する覚書を交わしました。

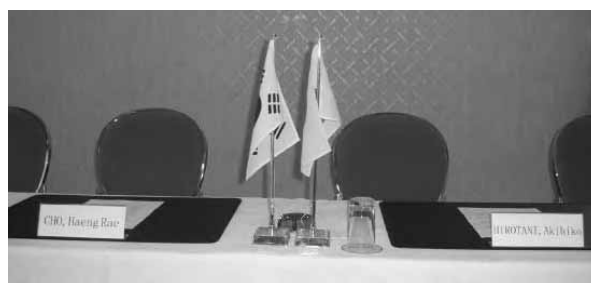
覚書締結式にはAJCEとKENCAの理事等20名が立ち会いました。

締結式の冒頭、KENCA Haeng Rae会長は「コンサルタントエンジニアの技術向上、両協会の発展に期待する。様々な懸案に、両協会が力を合わせて対応していきたい。」と挨拶されました。また、AJCE 廣谷彰彦会長は「両協会の良い関係づくりが進むことを願っている。」と答えられました。

覚書の概要は以下のとおりです。

目的：日韓両国のCE業界発展のために協力と連携を促進する

範囲： 情報提供 技術者の相互交流 共同研究・調査 セミナーやシンポジウムの共催
企業ベースの連携 他



左から KENCA KIM Yong Gon 副会長、CHO Haeng Rae 会長
AJCE 廣谷彰彦会長、清水慧副会長



Richard Stump 氏来日報告

AJCE 事務局

FIDIC-YPF (Young Professionals Forum) の議長 Richard Stump 氏 : 米国スタンレー社社長が 7 月 8 日 (火) に AJCE 事務局を訪問し、金井恵一技術研修委員会副委員長、山下佳彦 AJCE 事務局長と意見交換を行いました。



FIDIC-YPF は 2001 年のスイス大会で設立された若手 Professional の活動を奨励・促進するための組織です。AJCE はこの FIDIC-YPF の設立準備段階から支援を続けており、初代議長 (佐々部圭二氏)、二期目議長 (秋永薫児氏) を送り出しました。Richard Stump 氏は三期目の議長です。このような背景から、Richard Stump 氏は業務で来日する機会を捉えて AJCE を表敬し、FIDIC-YPF 支援や AJCE と FIDIC-YPF の連携促進につき忌憚のない意見交換をおこなっています。

意見交換会では、金井副委員長より AJCE の若手 Professional の活動状況について以下の内容を報告しました。

日豪交換研修が今年で 12 年目を向かえる。昨年は豪州から 7 名の研修生を受入、今年は日本から 6 名の研修生が 10 月に豪州を訪問する予定である。

4 月に韓国ソウルで開催された ASPAC/TCDPAP 会議で、秋永氏を中心に AJCE-YPG (Young Professionals Group) が起案した ASPAC 版 YPF 構想について発表し、多くの賛同を得た。今後、FIDIC-2008 ケベック大会の ASPAC 総会においても発表・審議する予定である。

AJCE-YPG は不定期のニュースレター配信や FIDIC ニュースの邦訳、専門用語の日英用語集の編纂などの活動を行っている。

一方、Richard 氏からは FIDIC YPF の活動状況について以下の報告と要請がありました。

FIDIC-2008 ケベック大会で FIDIC YPF の議長任期満了により Alex Eyquem 氏 (UK) に交替する予定である。

同時に YPF Steering Committee (実行委員会) 委員 3 名が任期満了により退任する。そこで、日本からも是非委員を選出して欲しい。

FIDIC-2008 ケベック大会で Young Professionals Open Forum が開催されるので、日本からもプレゼンテーションをして欲しい。

の要請については、後日 AJCE の委員会で検討し、Steering Committee には (株) 建設技研インターナショナルの中島隆志氏を選出し、ケベック大会の Young Professionals Open Forum では (株) 日水コンの赤坂和俊氏が ASPAC-YPF に関するプレゼンテーションを実施することとなりました。両氏のケベック大会報告は本誌特集『FIDIC-2008 ケベック大会報告』に掲載しております。

Richard Stump 氏は学生の頃、日本の建設会社で研修をし、大変お世話になったので、常々日本には機会を捉えてはご恩返しをしたいと願っているとのこと。氏の発言は明快で活力と説得力があるうえ、配慮に溢れた気配りが感じられ、周りの人をひきつけます。日本語が結構流暢で、日本食が大好きとのこと。AJCE は、今後とも Richard Stump 氏との親交を深め、若手 Professional の活動を支援していきたいと願っている次第です。

技術研修委員会

2008年AJCE年次セミナー開催報告 「コンサルタント業務におけるリスクマネジメント」

技術研修委員会 技術研修推進分科会

日時：平成20年7月15日(火)13:30～17:30

会場：日本工営株式会社 本社3階A会議室

参加人数：85名

はじめに

2008年度AJCE年次セミナーは、「コンサルタント業務におけるリスクマネジメント」と題し、2008年7月15日(火)に開催しました。本年度のテーマは、海外のコンサルタント業務において、顧客がより大きな損害賠償責任をコンサルタントに課す傾向が強まってきていることや、PPP方式(官民連携)によるインフラ事業の執行や、デザインビルド方式(設計施工一括発注方式)の増加などにより、より一層、新たなリスクが発生している傾向にあることを背景に考えられたものです。

本セミナーでは、コンサルタント業務に関わるリスク要因を整理したうえで、外部専門家をお招きし、法律家の視点によるリスク管理のポイント、専門職業賠償責任保険(PI保険)の現状をお話頂き、どのように日常の業務のリスクを管理すべきなのかについて考える機会となればと思い企画いたしました。

AJCE 廣谷会長は、冒頭、「国内のコンサルタント業務においては、リスク管理(訴訟問題)や専門業務賠償責任保険(PI保険)などは、まだ、馴染みが薄いと思うが、海外のコンサル業務では、既にその必然性と重要度が高くなっている。このような状況は、今後、国内でも同様となると考える。」また、「本日、お招きしたお二人の専門家の方には、その貴重な経験を惜しげなくご披露頂きたい。」と、挨拶されました。

開会の辞 廣谷彰彦 AJCE 会長

以下に、講演テーマおよびその概要をご報告いたします。

講演テーマ・講師

海外コンサルタント業務のリスク管理について：

日本工営(株)顧問 澄川啓介氏

リスク・マネジメントに関するFIDICの取組み：

AJCE 国際活動委員会 副委員長

(株)日水コン 河川事業部副事業部長 蔵重俊夫氏

法律家からみたリスクの管理：

西村あさひ法律事務所 弁護士 小泉淑子氏

専門業務賠償責任保険(PI保険)の実際：

マーシュジャパン(株)シニアバイスプレジデント

佐藤 保氏

講演概要

海外コンサルタント業務のリスク管理について：

日本工営(株)顧問 澄川啓介氏

コンサルタント業務におけるリスク管理について、企業経営・事業収益の観点からのリスク管理の必要性を述べた後、リスク管理のプロセス・管理体制について説

パートナーリング、施設付随型保証(Collateral Warranty)
など、幾つかが紹介されました。

公演後、JBIC参加者より、「見識ある購入者とは？」について補足説明を求められ、回答としては、一般論として、海外の顧客の中には、コンサルタントとコントラクターの役割の違いを認識していない顧客がいることなどが紹介されました。

日本工営(株) 澄川啓介氏

明されました。特に、売上件数と営業利益の累積相関(カマボコ曲線)を示し、「営業利益の最大値は売上件数の2/3付近、最終利益はピーク利益の1/2付近にある。リスク管理により利益の流出最小化を図ることができる」などの見解とともに、リスク管理の報告フォーム事例を提示されました。

リスク・マネジメントに関する FIDIC の取組み:

AJCE 国際活動委員会 副委員長
(株)日水コン 河川事業部副事業部長 蔵重俊夫氏

(株)日水コン蔵重俊夫氏

FIDICにおけるリスク・マネジメントに対する取組状況を報告されました。

特に、契約合意書におけるリスクの取り扱いとして、コンサルタントの責任範囲や、賠償責任の限定などの留意事項が示されました。

また、FIDIC アカプルコ大会(2002年)にて合意された、「サービス購入者の能力水準が最終成果の品質に直接の関係を持つ」という考え方と、「見識ある購入者(Informed Purchaser)」の概念について紹介されました。

その他にも、FIDICにおけるリスク管理の話題として、

法律家からみたリスクの管理:

西村あさひ法律事務所 弁護士 小泉淑子氏

西村あさひ法律事務所小泉淑子氏

法律家の観点からみた、海外でのコンサルタント業務におけるリスクについて、対象国におけるリスク要因のみならず、コンサルタント側のリスク要因などが紹介されました。

契約条項のチェックポイントとして、Waiver of Sovereign Immunity条項の記載有無、仲裁条件(仲裁場所、仲裁規則、仲裁人等)、準拠法などの確認が重要であることが紹介されました。

また、「親電子亀判決」の事例を挙げ、下請契約は元請け契約の存在と内容を前提として、初めて成立していることを、紹介されました。

なお、日常業務で注意すべき点として、以下が紹介されました。

米国仲裁人においては、Discovery制度により、全ての証拠(書類、電子メール、パンフレット等)の提出が求められるケースがある。

外国公務員等に対する不正利益との供与等に関する、法律上の規定・解釈や最近の事例

これらのリスクの低減法として、契約書類の理解を深める、組織内での情報/経験の共有、法務部門の

人員強化など、訴訟社会に移行していることを認識した対策を講ずるべき、と指摘されました。

専門業務賠償責任保険(PI保険)の実際:

マーシュジャパン(株)

シニアバイスプレジデント 佐藤 保氏

マーシュジャパン(株) 佐藤保氏

専門業務賠償責任保険(PI保険)を取り扱う保険会社として、保険の概要の説明、保険購入の動機、担保の内容・方式、免責事由等、PI保険の特性を紹介されました。

特に、保有すべき損害と、ヘッジすべき損害(保険に転嫁するリスク)について、リスク・カーブをもとに説明されました。

また、PI保険の種類として、2とおりの方法(シングルプロジェクト方法、年間包括方法)があることを紹介されました。

実例として、年間売り上げ50～500億円規模の会社における近年の保険の状況(限度額、保険料、自己負担額)と、実際のクレーム事例をいくつか紹介されました。

おわりに

本会の終わりに、AJCE 宮本副会長より、「今回のお話を聞いて、リスクの多さに躊躇された方もいらっしゃるかもしれないが、具体的な事例の紹介などがあり大変参考となった。」と、挨拶されました。

今年度のセミナー・テーマである「リスク管理」は、参加された多くの会社の方々にとって「身近」な話題である一方、その詳細についてはあまり知られていないところであったと思います。今回、法律家や保険会社の方々からの具体的な事例の紹介により、少しでもお役に立てたのであれば、主催者として喜ばしいところです。

閉会の辞 宮本正史 AJCE 副会長

